攝津名所圖會

武庫郡
菟原郡

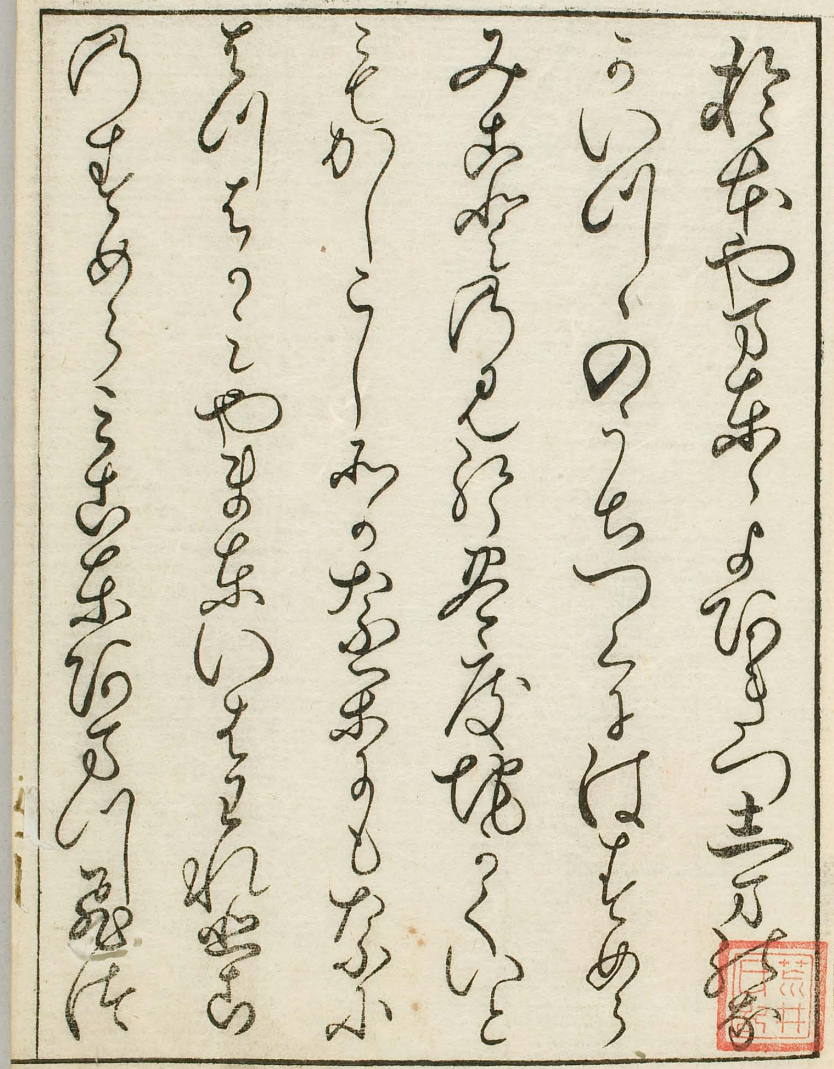
貴重書
291.6309
Ak
10

0441

攝津名所圖會

武庫郡
菟原郡

貴重書
291.6309
Ak
10



伊澤影

武庫川女子大学図書館
昭和　年　月　日
291.6301
Ak
117097
野中

武庫川學院藏書印

伊澤蔵

伊澤影

伊澤彫

伊澤彫

中山前大納言愛親卿

慶應義塾大学

攝津名所圖會

武庫郡

武庫山 一名六甲山 護摩堂 九想滝 乾滝 鳴滝

大師堂 大井滝

楠李葉嶽

世之所觀音堂 廣田神影向石

鷲林寺

見佐神祠

鹽尾寺

平林寺

穴塚

大家

武庫川 鎮守弁財天 弁天影向石

名次丘

武庫川宮

伊和志豆神社

梅尾湯

甲山神咒寺

山伏塚

蔦家

天臺塚

山頂社 荒神石

名次神社

武庫海

武庫浦

武庫渡

渡部綱右居

大嶋神祠

小林神祠

琴浦神祠

押照宮

廣田神社

奥之池

等覺寺

武庫俗

二人家

鳴尾里

住吉家

寶集院

牟古入江

小松嵜

鳴尾一松

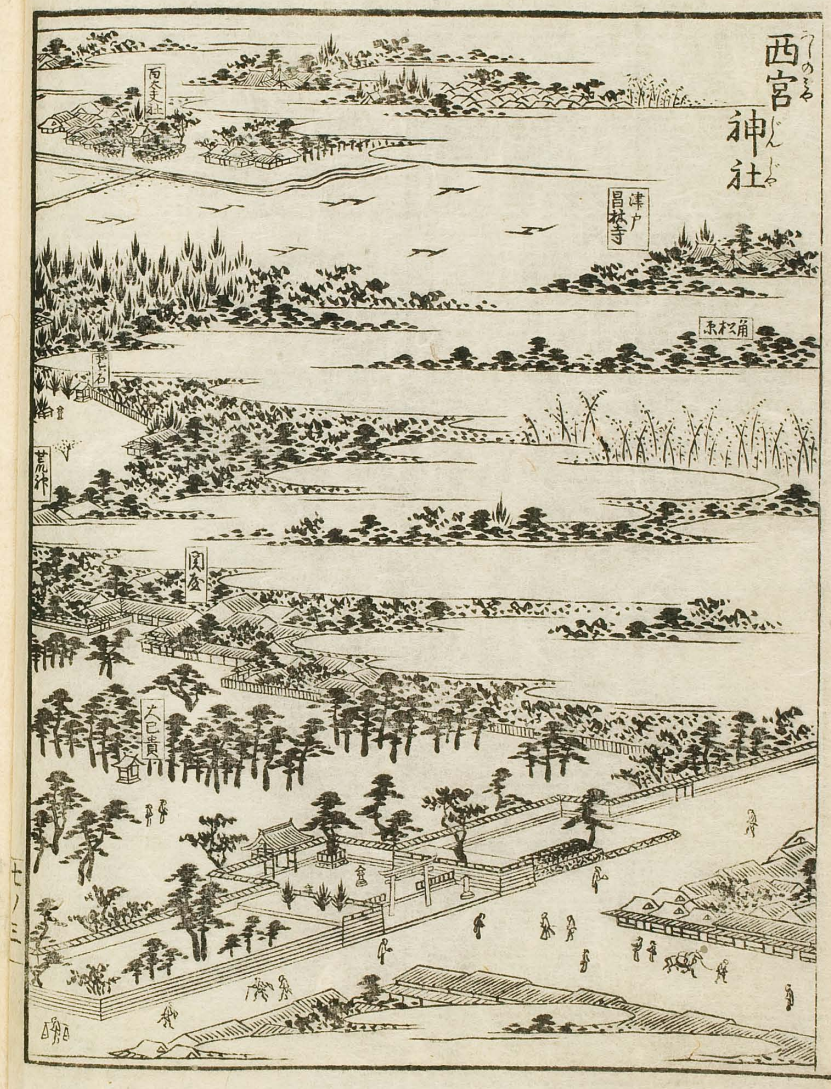
名寿嶋尾瓶
鳴尾泊
松岡古城
枝川
角松原
角之橋
昌林寺 英丈九墳 原類光墳 幸湯九墳 明星池
御茶濱
御茶濱
御茶池
西宮驛
西宮名産
六濯寺
聖泉院
積翠寺
大國王西神社 神明社 百済文祠 勝魚石 南宮 愛宕祠 大己貴祠 荒神祠 興坂
圓滿寺
西蓮寺
岩谷池
海清寺
敵岩神祠
順心寺
紙水戦場
牟古首
平塚
紙水古城
凡川
日下部浄方
紙朱清水
氏成貴女
菟原郡
打出濱
阿保親王古墳
金津丘
天滿宮
親王寺
八十家
葦屋里
業平古蹟
猿丸太夫古墳
葦屋川
月若宅址
芦屋驛

鷹尾古城
公光塚
湯女藥師
若宮祠
嬬家
漢人濱
芦屋浜
葦屋沖
芦屋海士
潮見松
澳龍燈
森稲荷
芦屋浦
山路湯
山路古城
踊松
葦屋灘
石窟
雀松原
石窟家
保久良神社
扁保曽墓
菟原住吉 末社 硬石 長尾松 拘竿竹 沖嶋濱
五百嵜
住吉川
御影山
沖新社
大海神祠 神宮寺古趾
若宮八幡宮 紫式松
名産沖新石
弓弦尾
八幡宮
武内松
徳井川
荒塚
伊賀家
武内家
十善寺
無仁蜜柑
余波松
鬼家
八幡宮
求女塚
都賀川
祥龍廢寺
石仏二尊
敏馬浦 二犬女嵜 二犬女岡
敏馬里
敏馬神社
敏馬清水 別當龍泉寺
摩耶山天上寺 文人堂 開山堂
観音堂 奥院

摩耶城　天狗巖
末友祠　法然松
畔家　和理家
布引瀧　砂山
熊内八幡　清水　福井家
高林神祠　王子祠

河内國魂神社　舟寺八幡
阿弥陀寺　天王家
名産灘酒　燈油　生田二宮
瀧山古城　滝勝寺
旗家　熊内牡丹
釋日慶古蹟

南宮社
児社


西宮神社
津戸
冒松寺
角木木
関屋
大巳貴

祈も殆
それて
柳の
池とく
盧元

西宮
弁財天
圓滿寺
本堂
大師堂

武庫郡

延喜式和名抄 風土記古ハ此ノ東ノ辺ノ郡界ハ至リテ西ハ莵原ノ郡界ハ至リ南ハ海濱ハ至リ北ハ有馬ノ郡界ハ至ル

武庫山

武庫郡の西ハ山ハ中ハ殺峯あり一名六甲山と云ふ山頂ハ白山権現祠神功皇后ノ社観音堂あり二月初午ノ日郡ノ人ハ西の峯ハ石の宝殿と唱ふ山中に水精あり土俗石の宝殿と唱ふ山中に水精あり孝に極く清潔なる祠眼境ハ可ん

仲哀天皇の皇后大神の二王子ハ霹靂日出山ハ崩ル父帝崩ル陣ハ待ク亀ハ其時皇后兵ハ発シ三韓ハ降ル武内宿禰ハ遣シ軍神ハ祭リ其ハ飛ブ霹靂ハ坂王及び山人の逆ハ誅シ山ハ崩レ埋む六頭と云ふ六甲山と称ハ忍熊王ハ宇治川ハ沉め其散ル波浦ハ流レ寄ル採ク白髪窟に葬ル

芦の葉ハ夕旁ハ雨波ハ武庫の山風ハ色ハ色つ

芦の葉ハ夕旁ハ雨波ハ武庫の山風ハ色ハ色つ　家隆

木の葉ハ武庫の山風ハ吹ハ海士の釣船　慈鎮

秋の夜ハ務ハ高根ハ吉ハ清守の浦ハ月ハ白玉　殿寅院大納

柏李葉嶽

武庫山の山中ハ伊丹志村の上方又山南に窟あり樣葉窟と云ふ土人云山中ハ柏李樹多シ年の末に樣葉ハ採テ市ハ出シ元風ハ飾リ清ル清ハ松葉ハ云

春曙抄云ハ此の国ハ樣乃嵩と云ハ

武庫川

水上有馬郡生瀬川ハ流ク頻家荘に至リ逆瀬渓仁渓ハ納ク小松嵩に至ク海ハ入

むこ川のあハとをとこ山ハ駒ハ引ハ入ハ

武庫川ハ引ハ

清国ハあり武庫川のかハれハ

六甲山東面の中間塊山ハあり　古義真言宗

摩尼山神呪寺

本尊如意輪観世音

弘法大師の作長弐尺許脇士持国増長の二天も同作なり

護摩堂

不動明王ハ安置に智證大師の作

大師堂

弘法大師自作の像ハ安に

廿二所観音堂

中ハ聖観音ハ聖徳太子作

荒神祠

之宝荒神ハ役行者の作八幡宮馬上の像ハ弘法大師の作

鎮守

弁財天ハ安に役行者の作毎月七日に開扉あり又毎茶

正月七日の初ハ福冨の法会あり其西の冨ハ此

山頭祠

白山蔵王任吉廣田八幡の七座ハ祭ハ

大弁瀧

本堂より小の方八町許にあり

廣田神影向石

本堂より真南二町ハあり

白龍石

本堂の西谷

弁財天影向石

一名居箱石と云ふ本堂より乾の方八町許ハ

荒神石

本堂の上方

乾瀧

嶺ハ北裏

鳴瀧

神の方ハあり

寺統日

丈嵩山をむう　神功皇后三韓を退治し給ひて後国家
平安の守護神なり　金の兜六物其外武器を蔵免
させ給ふ地名を武庫と号し山を六甲山と称し
又嵩山に形の似たるを以て兜山と云　文武帝の御宇に
初て役優婆塞山に来りて苦行し給ひ多財天の経文を
感見し奉り其尊形を作て鎮座し給へり厥后　淳和帝の皇妃
常に必意病大悲の神呪を誦し給へ重苦あり遂に夭長
五年二月十八日皇妃宮女二人に金吾校尉橘親守を召供し宮中
を出給ひ奥に山に入給へ時に紫雲麝尾峯にたなびき婢娟たる
美人出給ひて山の壺場なる半分を求し給へ廣田神の
化現と申す高嶺に飛去給へ皇妃大に歓喜し給ひ一宇を
営み給へ其後空海僧都を崛請し奉灌頂壇に入金胎両部の
奥旨を授り必意病の像を作り給へ素木をたづねて

山頭に大樹の櫻あり大師加持して皇妃の身量を計り規模し
尊像を作り皇妃に奉ぜ嵩寺の本尊是なり又山に一鬼あり
麁乱神と云へり此精舎に住し大師日東の谷に
大岩あり其上に神を祭りて護とし給へり鎮
祀し給へり山の麓に今なれを福石と云へり夭長
八年十月十八日皇后薙髪し給ひ如意尼と号し二人の官婦も
同時に髪をおろし如意と名乗る二尼倶に如意病の呪を怠
らず唱へ給へり寺を神呪寺と号ひ又感應寺とも唱へ義和二年の
春　淳和帝山より幸し給へり寺田迫里百町を寄附し給ひ
七堂伽藍魏然たり僧坊子院若干あり同年二月廿日皇妃
如意尼に忽病方に向く必意病の尊像に祈れ堂を合し給へ御齢
廿二才にして遷化し給へ委は元亨釋書に見へたり嵩山の繪図は
仁和寺御門主画き土佐土佐守ともに寿永の比荒廃せり

源頼朝公再興の台命ありて奉行ゆ梶原平二景時に其時
京時の茅葺捨文あり頼朝藤舎の旧跡に當寺より二町南ゆ田畝の
字とある頼朝家に當山の艮の方二町ゆあり報恩の為ゆ古に築く
法筵を修しなるとゆや成就坊の古蹟に梶原の宿坊に當るより南二町
ゆあり〻く田圃の字とある其より年累りて後當國伊丹の乱に
佛閣僧院みな煨燼とある其後粥神呪寺の村中ゆ一宇ゆ落く
本尊ゆ安置しなるの迫年又再興しく甲山の半腹ゆ建営し
諸堂今のゆく厳然なり

茅大伝正道憲暦應二年秋の比拝殿國神呪寺と
いへる寺ゆ龍を伐字紀に漬てけり〻字紀

新千載

ゆゑ〻ゆかりとえ結ぶ一ツ松ゆ月まちそへる朽蔦もうん　永福門院

朽のある一本ゆ松のゆけとあ枯ゆ生ゆえとも枯たのこれ　茅大伝正道憲

永福門院後醍醐帝の皇妃帝大伝正の姉君〻大伝正ゆ仁和寺
勝寶院の住職あり山一地ゆ神呪寺の什寶なり
神社考云
仁和寺四の妃ゆ冊後國余佐郡の人ゆ拝別武庫の山中ゆ入り

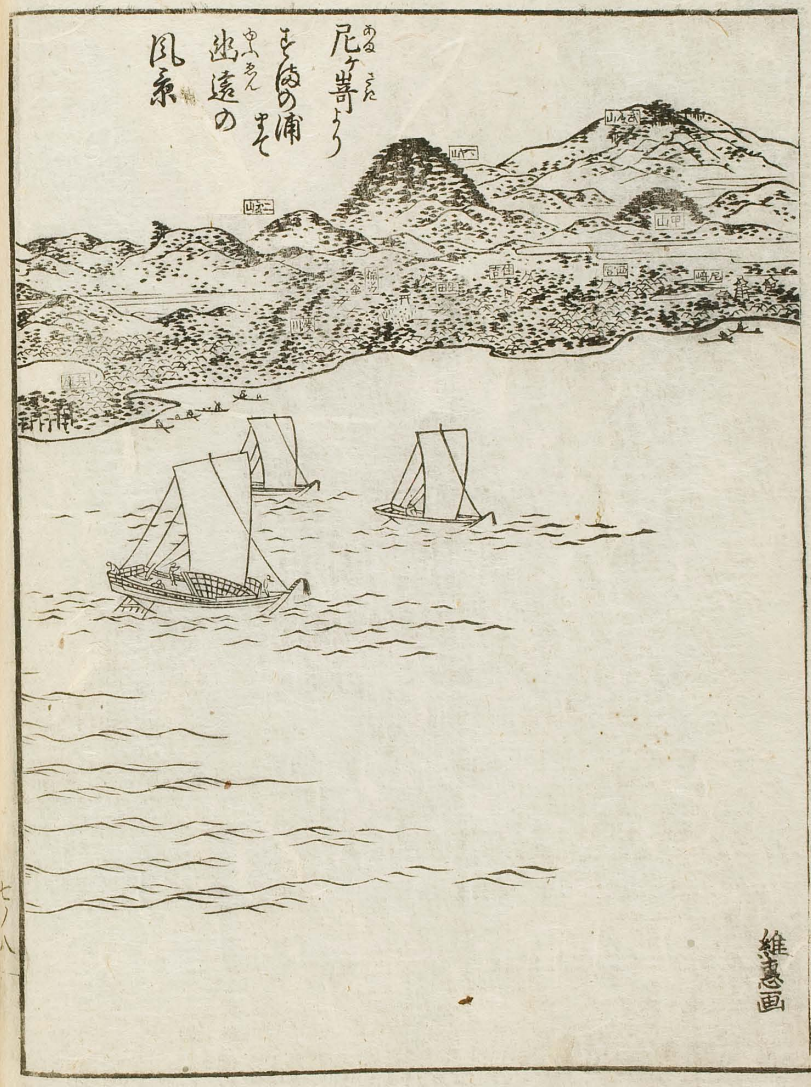
如意輪の法を修し空海ゆ清〻しく薙髪し如意尼とあり〻く
常ゆ一ツの笈ゆ巻に其裏を見る事ゆ得ゆ時ゆ天長元年
大ゆ旱に守敏空海の法師と祈して雨ゆ降ゆ時ゆ二人法雲ゆ
相伴ひ功験見くゆ空海師ゆの望妃の笈ゆ得く秘蹟ゆ修に
天下雨降るまで七日七夜妃の同宮ゆ水江の浦巻ゆ子と
者あり〻れ〻先教百載久しく仏境ゆ左に古見郎滑邏某
宮〻天長二年故郷ゆ還る浦巻ゆ子の日仙宮〻り得る紫雲
笈とあり則皇妃ゆ奉に又山頭ゆ樹本あり〻く時〻
光ゆ放り妃〻ゆ怪んく空海師ゆ命じたまひゆ意輪の
像ゆ刻しめ其長妃の身ゆ量く準〻た妃ゆの笈ゆ樹り
尊像の中ゆ
蔵むと

甲山の西ゆあり今警林寺村旧跡に武庫山と号に荒廃の後
就る西宮紀滝寺ゆ係せ守る

本尊十一面観音　弘法大師の作
長八尺

伽藍開基記云
摂の武庫郡ゆ親者の墓跡あり弘法大師の開創〻く武庫の山麓に
あり其山嶺ゆ〻く林木殿〻〻り秀て蒼穹ゆ接し〻る〻ゆ魔魅
いるる　寺宇天長八年如意尼山を開いく成
の時怨林中ゆ大警あり〻く黒雲ゆ起し而も火焔と共に出し
面ゆ魔尼山に至り殿宇ゆ焚んとす如意尼如意輪の呪ゆ
誦し香水を注ぎ忽魔ゆ止んく宇護神とある則大師十一面に
祀る〻ゆ忽魔ゆ安置し警多ゆ鹿島神の祠ゆ設く伽藍
親者の像ゆ刻〻く寺ゆ警林寺といく

千載
ふかき
沖の


尼ヶ崎
遠の
風景
維恵画

名次岳　山脇武庫山ともいふ　文徳實録日
吾妹兒ふいかを世わを世川名次山南の松原いかゝ志わさん　高市連黒人
名次神社　廣田の西名継丘ふあり　延喜式云　盤載　二代實録日
貞観元年正月　授二正五位下一
見佐神祠　見佐の田地ふあり　中ふあり　村民　二戸　迎　兎　川辺郡小廣門の
退居に今小祠の内の岩窟ふあり　水ふ閼伽し　武庫門の
見佐明神と称に
鹽尾寺　伊丹志村の上方ふあり
真言宗の伽藍
本尊十一面観音　毎年正月十日寅の刻を観音の會式
村民おのく炬を燃し其光年
男子出生の家ゝ米一石を炊て盛と又家ふ集會し
の家毎に配る　村中
ふ水を扨合く挑を駆ぐ米粥を拵く村老出く
宿るの相圖を又登宇牛ふ　これを伊丹志家と
由緒詳あり
塩尾湯　月前山下ふあり　塩水捕出にされを汲く湯屋
有馬の湯を汲時に紙瘤疾を治に
泉あり　村ふ繋く　川ゆく川面湯　川面湯
小林神祠　小林村平林寺の鎮まる　川ゆく境内ふあり　多財天と称に
川地の生土神と小林村祝祠ふ

平林寺　小林村ふあり　真宗　荒木攝津守逆乱の時　焼亡　天正年中
本尊十一面観音　去日仏師の作　又釋迦佛を安に　慈覚大師の作
如法経塚　境内ふ経塚あり
穴塚　小林村　萬塚　廣田村　奥池　月村ふあり　廣サ四百二十間
大家　廣田村ふあり　又下大市村ふもあり　土人云　高師直の家
武庫川宮　藏人村　其田跡と　日本紀日　孝徳帝二年十二月
有馬温泉より還幸　武庫の御宮ふ
渡部綱古蹟　武庫村ふあり　昔の城門あり　茨木童子の
家ふ藏せし　鬼綱が伯母と他しく
黨ハみな四方に遣しく　破屋を焼る　由緒ふ
延し　破屋を　川村の
二人家　武庫村の西ふあり　由緒不詳
伊和志夏神社　廣田荘中村ふあり　延喜式出　二代實録云貞観元年
正月従五位上を授く
岡太神社　門戸村ふあり　延喜式出　川地の生土神と　摂津志ふ小松村の
押照宮と

上代の
ものがたりも
うれしき
くとと山
史邦
弁天
方丈

兜山神咒寺
弁天
ちくぶ
護摩堂
大師堂
翠雲堂
本堂

廣田神社

廣田社合

と名乗れて
渓の面に
宮造り
めぐらせる
数寄の
白石

素籍

拾遺

御祓して
ちはやぶる
神の末
八百万代の
神のまもり

素藏伊衡

廣田神社 廣田莊ふあり延喜式 神名帳曰名神大月次相嘗
例祭七月七日神幸あり此日神室を出して諸人に
饗なさしむ又八月十八日放後の例祭なり近隣四村社
生土神あり祭礼は西宮えり繁昌なり
名寄 ちゝ濱の砂の数ふあり称ともめてゝ廣田の名をゝ頼まん
夫木 人は皆とゝ見ぬ物ゆゑ神垣や廣田の濱ふ入れる志ゝ名
性意廣言朝臣
祭神五座 任吉家一 神功皇后 第二八幡宮 第三 日本紀云 八幡神 第四 高皇産霊尊
末社 紙園 表日 地祇 稲荷 子安
神功皇后之船直指難波干時皇后之船廻於海中以不能進
更還務古水門而卜之於是天照太神諭之曰我之荒魂不可近
皇居當居御心廣田國昇以山背根子之女葉山媛令祭之云云
風土記曰
皇后軍を發して三韓に伐ゆく時御産の月ふ除りて石に成れる
腰裳ふ挿むを是産に成せざるんなりと我遂ふ異國ふ入ゝ御剣に
据ゆゝみを悉く臣服に祇紫ふ帰陣しゆひ皇子を産ゆゝ
是譽田天皇なり稚津國の北岸廣田郷に至りゆゝ今廣田明神

と称するゝあれ明り云云
文徳實録曰
攝津國廣田神授從五位下云云 三代實録曰 貞観元年正月廿七日
奉授攝津國從二位勲八等廣田神正二位 同記曰 貞観十年十二月
十六日乙亥進攝津國正二位勲八等廣田神階特加從一位云云 同年
閏十二月十日己亥遣使於攝津國廣田生田神社奉幣云云
東鑑曰
建暦二年九月十七日庚申就関東御寄進石清水任吉廣田等
御領訴訟事社解令到来者不經宿可申沙汰之由被仰
問注所云云
任吉家 下瓦林村ふあり或曰 山伏家 円村ふあり或曰
善圓國師墓と称 圓應禪師墓と称
瓦林古城 同村瓦林村ふあり瓦林累世ゝに居住ス康安年中
河原林彈正左衛門ゝ城ふ據りて元亀年中ふ城廢に
大宮神祠 大鳴莊今北村ふあり東大鳴西大宮の
生土神と云
寶集院 東大鳴村ふあり天正年中秦山僧理太夫再建
太閤秀吉公影像秦山法ゝ像俱ふ仏殿ふ安に
布尊安財天 秀吉公の仏殿に依仏 天壇塚 西大鳴村ふあり
由緒不詳

武庫海　和名尼崎　武庫・菟原の郡名なり

日本紀曰　持統天皇二年丙申禁断漁猟於摂津国武庫海一千歩内云云

元亨釋書曰　持統天皇二年秋八月置放生所于摂州武庫海　紀州

巻野加州身野各二万頃順佛化也云云

万葉　むこの海に船をはなちてこぎ出ればいとどもなるかな人九

同　むこの海乃小くらしいとどもなる海士の釣船いさりをるらん　後拾遺

夫木　年古れ海ふかまの浦の波さわぐ旁のあるに網をしもかな　長方

武庫浦　武庫郡の浦なり

玉葉　夕附日つのの御さたをまく舟のかぢふかくやむこの浦風　入道右政大臣

同　武古の浦に向ふ潮いさりをるあまの釣船波さわぐ見ゆ　人九

後拾遺　旅ねしく秋の夜さむ夕にいとゝ吹そむこの浦風　伯賢門院堀川

夫木　むこの沖のう家縄ちりつをは友さそふ海士の釣舟　式子内親王

年古入江　今武庫郡菟原郡の内に新田と称する所なり　むこの海ふかまの入江なるべし

万葉　むこの浦に入江のをとりあてのあかぬ浦をあれて寝ぬかな　後拾遺　素性法師

夫木　夕されいむこのゝ沖みちめゝ入江の洲鳥の聲さわぐ　顕朝

同　武庫岩　今はみな新田となる

夫木　旁晴る岩なかりせば武庫の海の月をうる宿かな　信實

武庫道　和国海道をゝ

万葉　むこの海をあけむこのつらふあまつをひのをれりを家にをそ　後拾遺

琴浦神祠　東新田村街道の北側にあり此地の生土神なり　例祭十月五日　東神融たる事東京師六条河原院に

此浦をもろも日毎に潮さゝ　運び　回蹟　なるゆゑ　かの大原の

あくに　阿波鳴門　此所　つらく　風条　斜　南方紀の徳和泉の浦々

あれて　とく　異浦　異れば　勝地

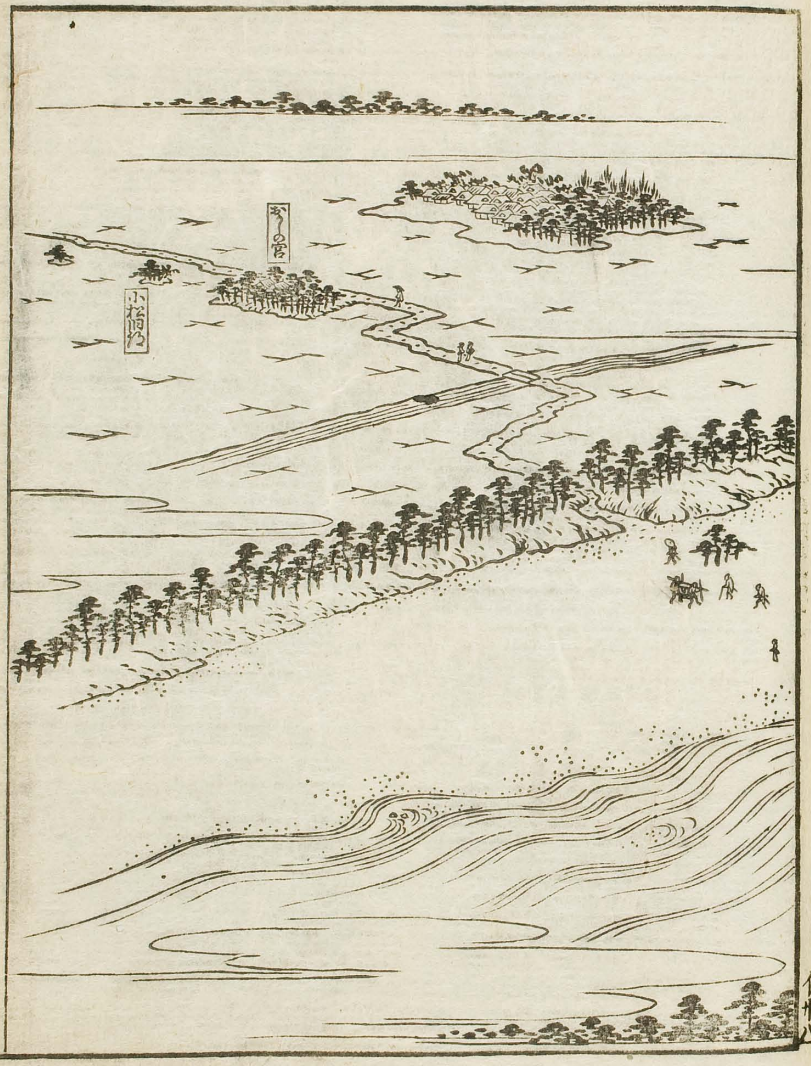
風雅　おやこゝろ小舟こぎ捨てる海士小舟つる方ふ川波も宵あり　後光明院

後千　たづの若をはつる方ふかき子規おやこゝろふかき人もあるらん　後拾遺

夫木　松の風波のをゝ寄る琴の浦は酌の杯ふかあり　仝

武庫川
おゝ〻の宮
小松舊蹟

武庫川や
ゆふさちどれの
虹の橋
菱丸



ないやうと
腰も
鳴尾の
西瓜
ふ
蘭丸
百友汀画

鳴尾西瓜畑

小松嵜　小松村の海辺にいへり支本集ふく近江勝は
西國と書かな
ふかはかとうの風景を　時見て小松の浦にふる昭史　勝明法師
日
子の日して小松の浦をくまなくふる世のかけとうへ　俊成
押照宮　小松村の内街道の南橋ふ或曰雑波押照宮の同蹟と
いへり其證不詳　押照は雑波の枕詞なり土人は淫押照
宮と称しなく此地の生土神なり　按は志小法　成式内乃
岡田神社と書しなり　岡田神社は門戸村にあり
押供家　押照洞　二町許西にあり押供所の古跡なり
土人小松を盛家といへり大なる謬なり
等覺寺　小松村にあり浄土宗大悲山観音院と号に本尊は
十一面観音の古仏なり押照宮は此寺の鎮守なり
嶋尾里　小松の西嶋尾村をいへり
又成尾とも書に属邑八村あり
紀伊国名所図会
常なりも秋ふる尾の松風ふかて身にしむ物おもひ有る　西行法師
支本
尾にそたはるおの里は秋風ふ波うけ寄るとぬ日なるふし　為家
嶋尾一ツ松　今なくなりぬ
拾玉　古有ふ跡に
家身あそ嶋尾ふたてる一ツ松くもあしくもふ波ひ色し　為鎮
名産嶋尾西瓜　嶋尾村より多く出る
上品なり

はやかてなきて海のあれぬ西瓜のふ
西瓜ふ　沖を安達が原なれや
出女の口紅おしむ西瓜うれ　其角
嶋尾浦　嶋尾沖　俱ふ古跡　支考
嶋尾泊
支本
浦　ひとく寄とおるおの泊ふ松風さえてふる昭史　清西法師
続千載
秋寄く嶋尾の浦れあり人を波うけ寄るとぬ日もなし　大江貞重
千載
ひとく寄おの部のうれ山のもみとにあるおの沖ふ出めれ　権大納言実家
続古今
生駒山を示ふあるおの沖ふ出く月ふもかくらぬ影のあま雲　源家長
新後撰
寄生木ふ寄にはるおの沖津波うけてそるあれとるへうなし　親意法師
松岡古城　小松嶋尾の山をふあり観應二年将軍尊氏と高師直と
共ふ退くきたれ據れと
枝川　武庫川の支流ふ称ふ嶋尾今津の間ふ流く
海ふ入あり流水間に
南松原　津戸西宮の間ふあり今四蹟とくく
古松廿本許ある樹く
百景
あまと女ひさりくくなのおなくくて新芽の松原おもかゆるふ　横くきに

角之橋 津戸門ふ架に石橋く夏を向詳
裏ふ經文ふ鐫げ
昌林寺 はと村ふあり 松原山と號に浄土宗
恵心僧都の開基く
本尊阿弥陀佛 安阿弥作 高丈九尺
源頼光墳 日所ふ 明星池 寺前ふあり 俗法師丈九の身代と
其前ふ曜ひ洗ひ 故ふ村民前洗池と いく
御前濱 一名廣田濱ともいく 古蹟あり
風土記云
神功皇后 播磨國海濱の北岸廣田郷ふ到る今廣田明神と號る
ちれこ海邊ふ號しく御前濱と ひ御奥といく
支本
神垣やおまへの濱れ松風ふ波も寄そへ里神樂この郷 後京極摂政
日
いさたよさ光ふ波ふ千ちるみるやおまへの濱ふつりる白雪 後成
日
人いさたれとぬち神垣や廣田の濱にふるる白雪 廣言
日
あれこふ田の濱ふいのりても今ちひ形ふ月の見ひふ 定家
御前奥 御前奥洋俱ふ
古蹟あり

千載
くとおまへの沖を見てせは雲井ふ波うへ白の絶紅 右衛門督 頼実
支本
知ふおまへの沖をとたふく雲井を海のものとちりぬる 清信
日
志濱さたるおまへの形こるてもたこの沖おそひやるれ 後鳥羽法皇
日
廣田社哥合
神垣やおまへの沖れ松枝を埋ふあふ君の志波 後鳥羽法皇
御前池 西宮ふあり一名爾天伍池と いく
廣二百三十餘畝
名考
おりくとも人めをはくむ用ふ生おまへの沖とちりぬ色くく 漢文志に
西宮驛 関西の官道ふ京師より切十七里大坂より八里ふ
市中ふ京大坂の分岐ふあり 標石ふ 建る町名十九屬邑
二村 都會の地ふ
市店 舗舍多し
西宮名產 綱ちれを御前魚と いく 酒 酒西宮 海藻鹽醯
海壓獨魚 麦茅膏等ふあり
六湛寺 西宮の山ふあり 寶多山と号に 廣永年中 號圓和尚乃
開基 古鐘あり 銘曰 攝津國西成郡 鳴鹿莊盛福寺鐘
文永十一年甲戌四月九日 鑄云云 ふ是の年ふ
ちに移しく 由緒ふ
聖衆院 今左衆ふあり 戒衆山と号に 康安年中
虎僧和尚の開創ふ
積翠寺 所ふあり 萬松山と號に 南基
聖衆院ふ同し

イサハ

西宮市芦屋の
板網へ魚を寄
せ初めひ
しろ世賞を
あれ芦屋の名産
網ある事
中ふ
けに起しく
諸魚も小網
漁しろ
沢めく拘ふ
つくこる奥ろ
至ッく美味
ゆうと人の
つくろれ

春泉画

大國主西神社　西宮市産町ニあり西宮太神宮と稱ス延喜式日
拾玉　鏗鞆　荒宗郡ニ載ス

西の海ニ風ありて出ようの人の名吾妻ニの名ひとこと帝　惡鎮

祭ル神　中央天照太神　左素盞嗚尊　右桙児尊
日本紀曰
伊弉諾尊伊弉冊尊為夫婦生蛭児雖已三歲脚猶不立故
載之於天磐櫲樟船而順風放棄云云
古事紀曰
生子水蛭子此子者入葦船而流去云云

南宮　摂内本社の神の方ニあり社號云祭神二座中央巖嶋姫尤
豊玉姫右大山咋命又按体志云素神事代主神故隨當
宮の外西浜の南ニあり
今奥荒蕪と稱ス云云
摩留社
匂合と名ケたる浜の南ニ荒宮造りあるたりて社ありの白宮　家祐

大已貴命祠　門内の東奥宮　門内の西ニあり　宇賀神祠　沈の中
松尾伯者
船玉公ニあり
愛宕祠　神樂殿の東ニあり　荒神祠　愛宕祠ニ隣る　繪馬舍　本社の神ニ
神樂殿　沈の東　閻魔　南宮の東　神明社　本社の後　百太夫祠
例ニあり　神明社の傍ニあり　北町ニあり
神明社の傍ニあり　西宮
傀儡師の始祖ニ
奥蛭子祠　門の西南ニあり　恵財天祠

門の西　腰懸石　西宮騒場の傍ニあり　蛭児神社　本社腰掛ケ
ニあり　ようく　其外市中ニ本社の古蹟多し
夫當社を崇ニ七福神の其一ニ　諸人ニ財福ニ與ク
ようくと法時ニ云ひ遠近の諸人多ク神樂の絶ル者ハ
社頭ニ斜ニ衣焼の不ツけハ祟離れ赦き特ニ多居乃茶屋
山陽道の驛路ニ付来の旅人も絶間なく市人の交易
ハ仏神と稱ぞとして来る市所の生土神ニ毎年
正月十日ハ居籠祭ル九日の夜ハ仏神廣田社ニ除幸ス
また神像の西ニ向ふ人目ニ見ぬ所ニ蔵ありて
市中の民家ニ出ル門戸ニ蛭蓮葉を畜ク門松ニ
逆ニ立ル内ハ遠近の親さやうく知己の者多ク来りて酒のみ
豆腐の串焼ニ美味ニ成ル酒一杯禁足して起拜す神祭ニ
はもむ畢鶏鳴のごとく近隣の糸竹あるべ社頭も騒しくなりて
市中も門戸を閉ぢみなく本社へ詣を社参ニ

お賣市に行き給へ放下師観世芝居あやつりく那集を傳事
稲麻のめしきを以て十日経子と云ふ六月十五日八月廿二日も
例年ふあり拵経子と云ふと諸冊の尊支帰しゆひく初ふ天照
大日霊尊に生れひ次ふ月讀尊に生其次ふ経兒を生ゆ実二男
あるとやくこと云ふ所為と我く称しくる已ふ二茶も脚立せゆへ容像
あるたくて大盤藤樟船ふ乗く風ふ順せ放ち棄ゆくり賊しを先く
夷の名に蒙るゆへふわ又容顔寛ふくてあふ笑に合ゆへふくり
笑姿とも書しく又俗名みく恵夷須とも出くるく支福神と賞するく
大已貴命の所子事代主命るり此神出雲國こ稲嵜ふ遊ゆひ海
濱ふ出く釣魚に楽しゆせゆへあれを恠兒神ふ比して神像を作るる
るに大已貴事代主の二神ハ日本最初の地主神ありて福德の所神ハ
又笑姿の相殿ふ大黒天とてあり義楚六帖ふ大黒神ハ梵天の眷屬
みく食厨の護神ハ西域諸寺の食厨ふあれを安置して米を

大ふ霊異ありと我く又羅山子の神社啓蒙ハ今の世間ふ俵に負
しめる形を刻く恠兒神ふ双ぶ云ふ大黒天神と字に知ふ
爲し大黒と大國と者顔相通に大國ハ大已貴命の七名ハ
其一ハ當社の鎮坐ハ年来久遠ゆ〻く詳ゆ〻とくども
按ずるふ廣田を以く先〻〻此神社ふ祀ふ次ハ武ふ又ゆ又
南宮を其次ハ歌合ふ又ハ恠兒神の所来ハ日本紀及び
古事紀舊事記等ふ又くれをあに大異に成るくぬ

海清寺　西宮北の方ふあり巨鰲山と号に禄宗京師妙心寺ふ属に
應永年中無因禪師の開基ハ人俗姓を平氏ゆ〻く
尾州の清ハ九茶ゆ〻く建仁寺の可翁ふ投して羅漢ハ十七茶
ゆ〻く大傳と云ふ氣宇高潔ゆ〻く天性の靈聰ゆ〻く
社寺に嗜む最周易に若し妙心寺接待和尚に宋憲に的孫
弘南しく此方ふ振ひ遂に其法に嗣く國山國師の
時ふ玄州大守波多野義宗に俗下に院に建く所に
接し先あれを退藏とい其後師ハ北ふ當寺に開き
瑞泉寺に建く所に開祖ハ尾州大山に
持ハ師に墓んぐ相見んと請ハ師老病ふ
遂に當寺ふ退隠しく應永十七年六月初ハ日示寂に

[illegible]八十有五茶毘ありて全身を奉じて寺中に塔を其法に
[illegible]し者みな一方の導師なり

順心寺 西宮の北にあり慶福山と号に義安年中
法澄國師の開基と

圓滿寺 西宮市産町にあり古義真言宗醫王山某師院と号に
開基法道仙人武庫山鷲林寺とさくに遷に

本尊藥師佛 弘法大師の化身[illegible]八寸古鷲林寺にあり文正
七年云火の時[illegible]阿闍梨信慶法師に墨告
あり[illegible]西宮市中に安に故に今里鷲林寺とも[illegible]側に
愛染堂大師堂子安地藏[illegible]春天を安び

西蓮寺 西宮にあり永祿年中の
春捨文あり

艷岩神祠 就木岩村にあり糸神巨岩なり倚疊艷のぬし
此地の生土神なり

咲る日武蒸叫や暑に艷岩 岩寿宗鑑

就水古城 就水村にあり永正六年の冬細川高國の屬將瓦林政頼
ちくに據る細川澄元四國の兵に[illegible]兵庫及び
神兒寺に營し三好元長に云に[illegible]陣
[illegible]高國丹州山州の云に[illegible]沈田に[illegible]丹波に
宗護代内藤貞政先鋒なり政頼を援し同七年正月
十日城東に就ひ高國貞政利を[illegible]丹州に退く二月
城中に糧絶く援に到らず三好修理太夫
ちに[illegible]しちに守ば

就水戦場 親應二年將軍尊氏舍弟真義とさくに會戦に
尊氏利あり退く松岡城に入永正七年細川

高國澄元とさくに會戦に高國
利あり[illegible]沈田城に退く

岩谷池 就水村にあり 平塚 就水村にあり
廣さ二百三十餘畝 由緒不詳
就水村にあり泉清冷なり[illegible]庭に徹に

就水清水 暑[illegible]に[illegible]滅なし

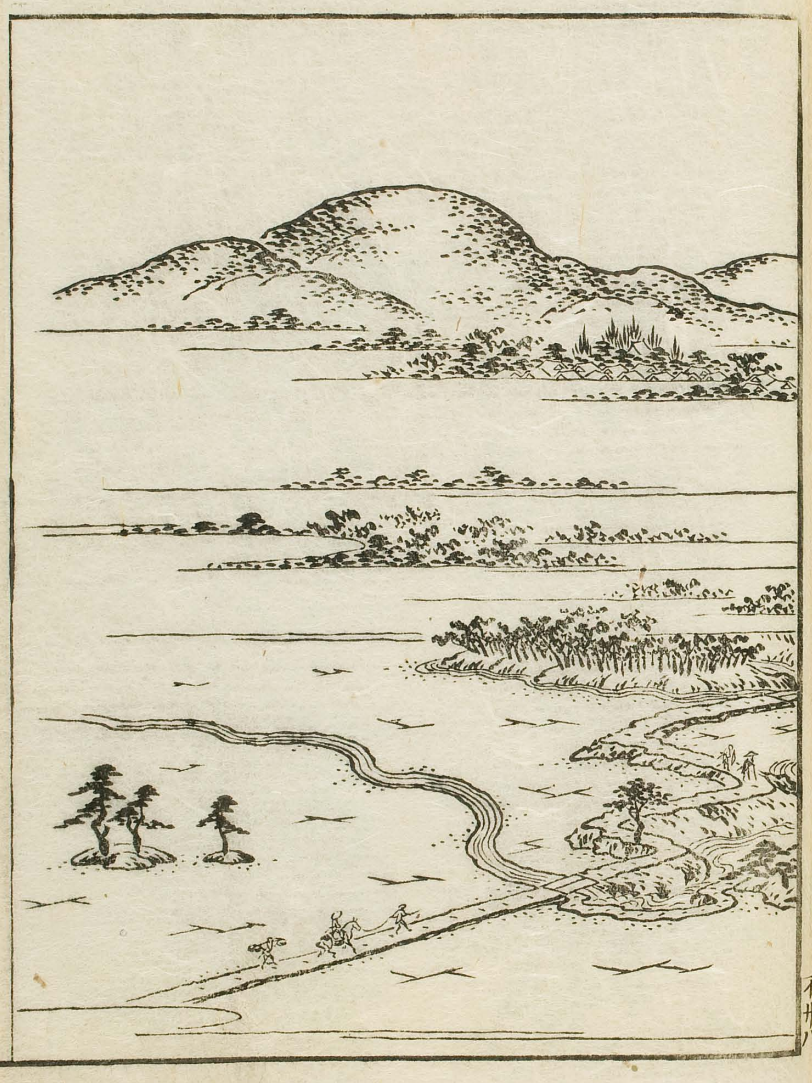
さゞれ嶽足這上ぶ清水のか　　[illegible]
奥さへも棲ば淋しき清水かな　　蘿書
松の葉は一葉ぶく涌しき川かな　　泉哉
[illegible]の沈ぶ清水や金は蔓　　斑竹

夙川 西宮に至りて海に入る[illegible]水なし[illegible]
[illegible]郡の界なり

牟古曽 武庫の氏族なり百[illegible]國の人行禮吉志の後なり
姓氏錄出

日下部淨方 豊後に勇め民を愛に
武庫郡大領延喜年中の人なり身を節儉に居し

氏成賣 姓は日下部年十六なり[illegible]右京の人文室真人武庫麻呂に
[illegible]し武庫[illegible]没しく氏成賣喪に居しく禮あり
[illegible]生[illegible]日に[illegible]逆に改醮あり
[illegible]年二月 詔しく位二階に叙し戸内の田租に
免し門閭に表し
貞[illegible]に旌る



芦屋浦
踊松

とゝろ松
女波
男波の
栖子ゆ
明夕

仲哀天皇の皇后
大中姫の腹に出来
しゆ〻廣坂忍熊の
二王子をくしたてまつり
應神天皇に従ひ
たてまつる韓凱陣の
神功皇后を討たてん
とくわふ出ゆ
うり所の名ほど

維恵画

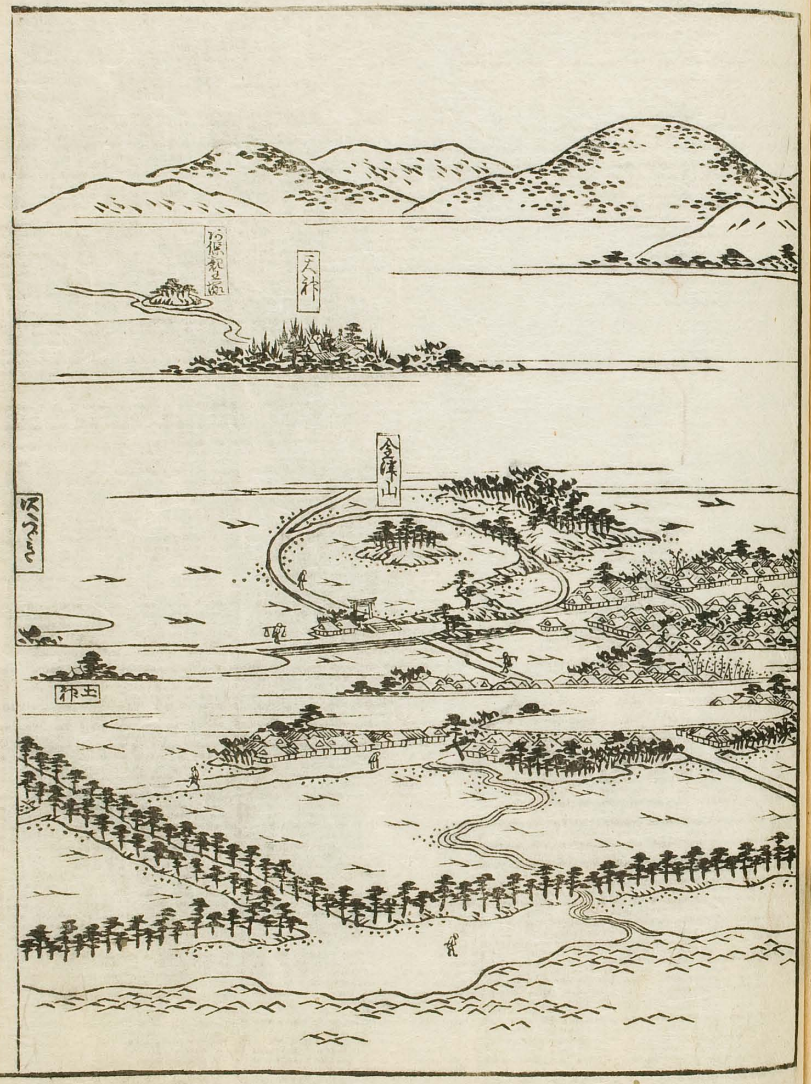
菟原郡

東ハ武庫の郡界ニ至リ西ハ八部の郡界ニ至リ南ハ海濱ニ至リ北ハ有馬の郡界に至る

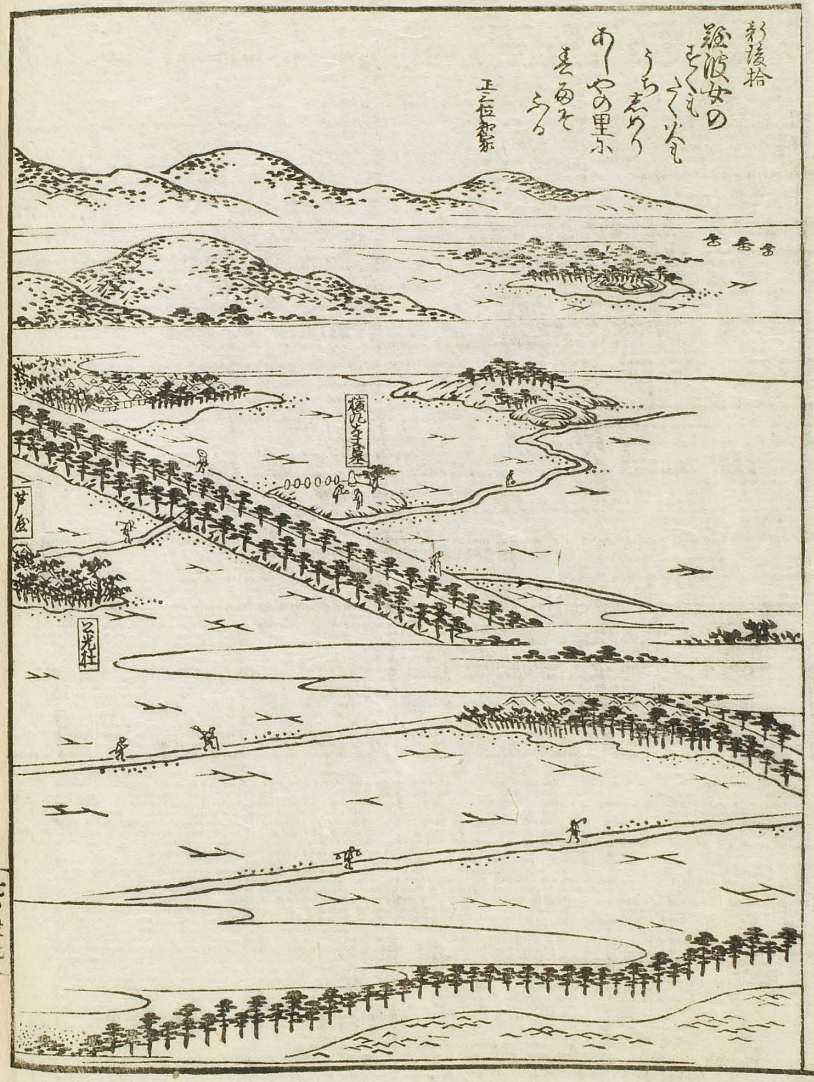
打出濱

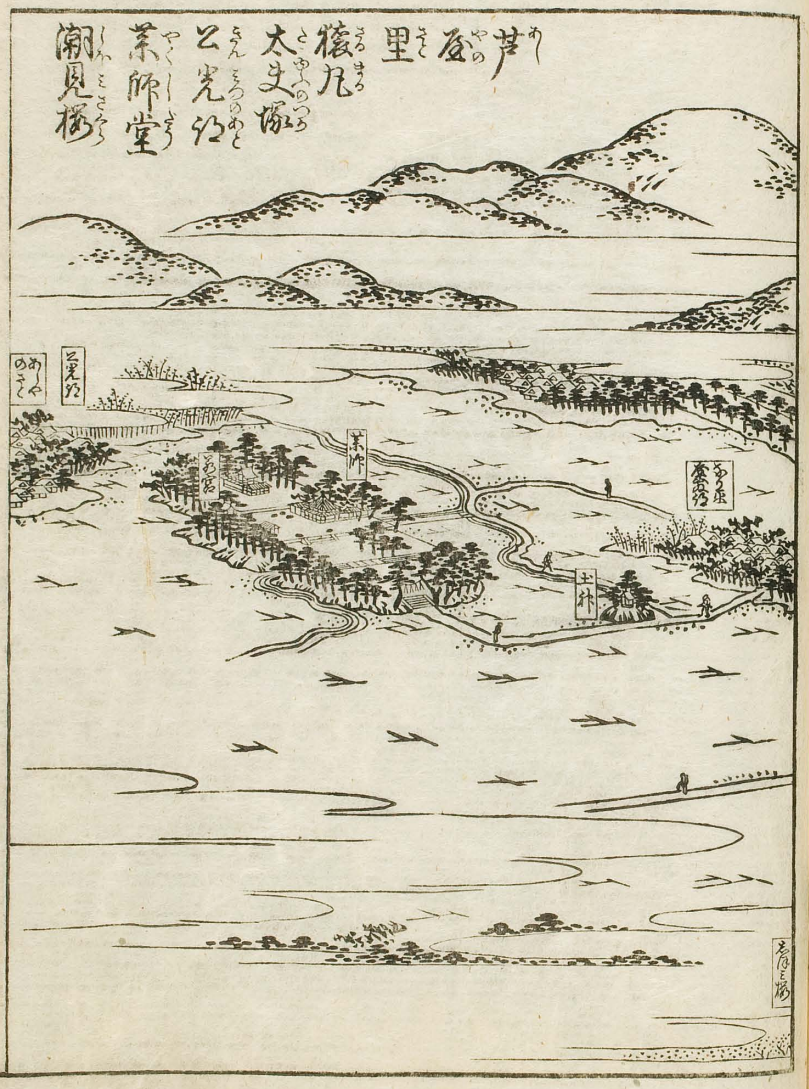
打出村の濱なり　神功皇后韓を征し給ふ時　船築ニ帰陣ましける所なり　仁徳の二王子ニ於て皇位を譲り給ふ時　難波忍熊の二王子ニ於て皇位を譲り給ふ時　難波忍熊の二王子ニ於て皇位を譲り給ふ時　難波忍熊

和歌仙の真一ふ〜く代〜の勅撰ふ秀哥多〜貞觀四年二月
従五位上ふ授つ貞元年二月ふ左兵衛佐ふ〜〜〜〜〜〜れ任ト真〜〜〜
左近衛權ふ將ふ遷つ右馬頭ふ〜る〜ふ累く従四位下を為〜元慶元年ふ
右近衛權中將〜〜翌年相摸權守ふ兼濃權守ふ兼て同四年五月
廿八日卒ふ年齡 五十六 伊勢物語云 孫海抄曰業平朝臣ハ仙体を得ぬひて右兵の奥天門〜〜〜〜〜〜



打出濱
阿保親王墳
金津山
親王寺


芦屋
猿尾
茅師堂


芦屋
猿尾
茅師

芦屋驛　いまハ芦屋里驛と今ハ西宮より兵庫とはくく

後拾遺　あしの屋のけぶりの波ちかけれハ蜑の子ハ海士の苫をかけらん　能因法師

鷹尾古城　芦屋里にあり永正八年細川高國足利政頼公の内くく攻る事ありしを細川淡路守高國足利政頼公の内くく攻る事ありしを細川淡路守高國足利政頼公の内くく攻る事ありしを細川淡路守

葦屋潟　兵庫ヨリ生田ニ至ル　兒原住吉ニ至ル　中嶋　いにし住吉　続古

なのりそ　なのりそ乃花ハ夏ニ咲ク　順徳院御製

日

あの浦ハ　後鳥羽院御製

沖龍燈　芦屋の沖ニ　龍神を祭る　海中の魚類

森稲荷　森村ニ　本荘九村の生土神ニ　例祭四月中卯日

躍松　勒日　天正九年鑄　郡ニ　辺ニ　稲荷の神帯　水の時

蓮田　森村の　森村の産子ハ　原田村　松原　流ル　神幣　干潮　例祭　毎年四月中卯日　拝の神　踊ル　松ノ木

保久良神社　北畑村ニ　延喜式出　牛頭天王　本荘九村の生土神ニ　毎年六月七日　神輿　社家ニ　祭祀

紙園　十四日ニ至ル　村民　祭祀ニ　祭祀

冷泉　同時ニ

菟原郡の中　野寺　岡本　田中　庁町　住吉　後鳥羽　五百崎

山路湯　西琴原　山路荘　一説ニ　矢田部郡中宮村

汲ク湯　湯ノ古迹　潮ニ

むくの山路湯の古迹ともいフ

播磨ニ　湯の古迹ニ

のぼりはるるハ　月ニ　船ニ

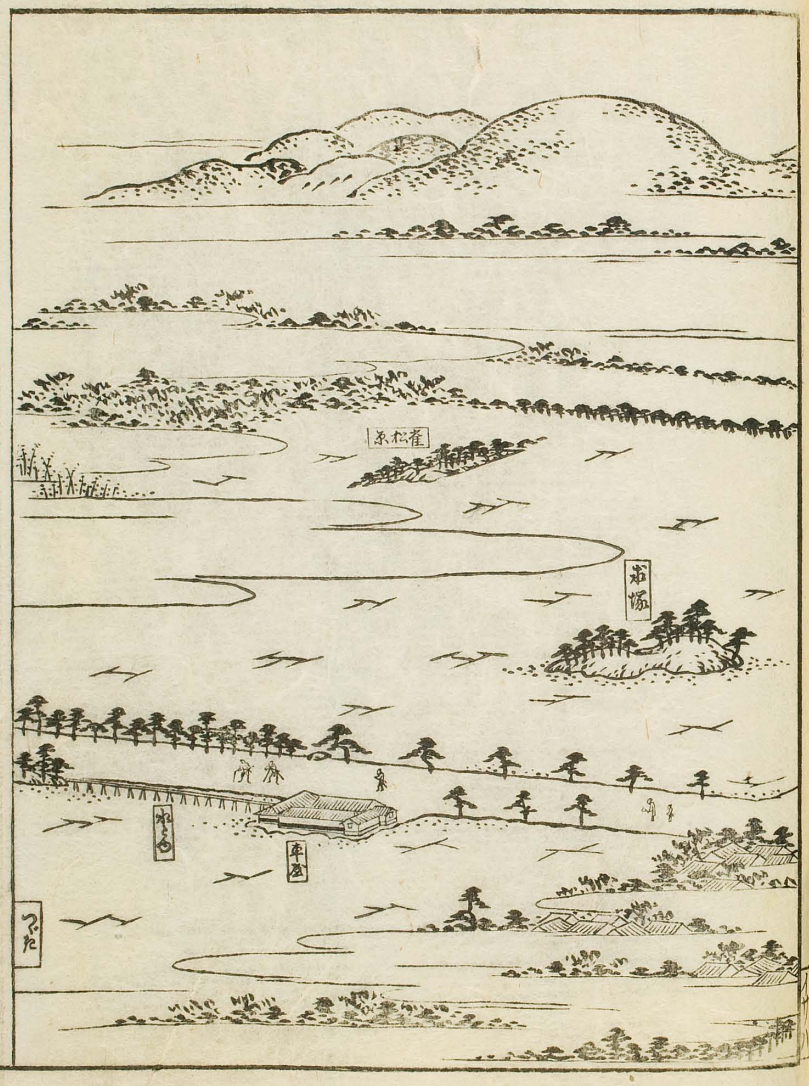
洞花

かりねをれ　花も咲ぬるん　我も有ゆ　そくこゝろかてそ　平忠盛朝臣

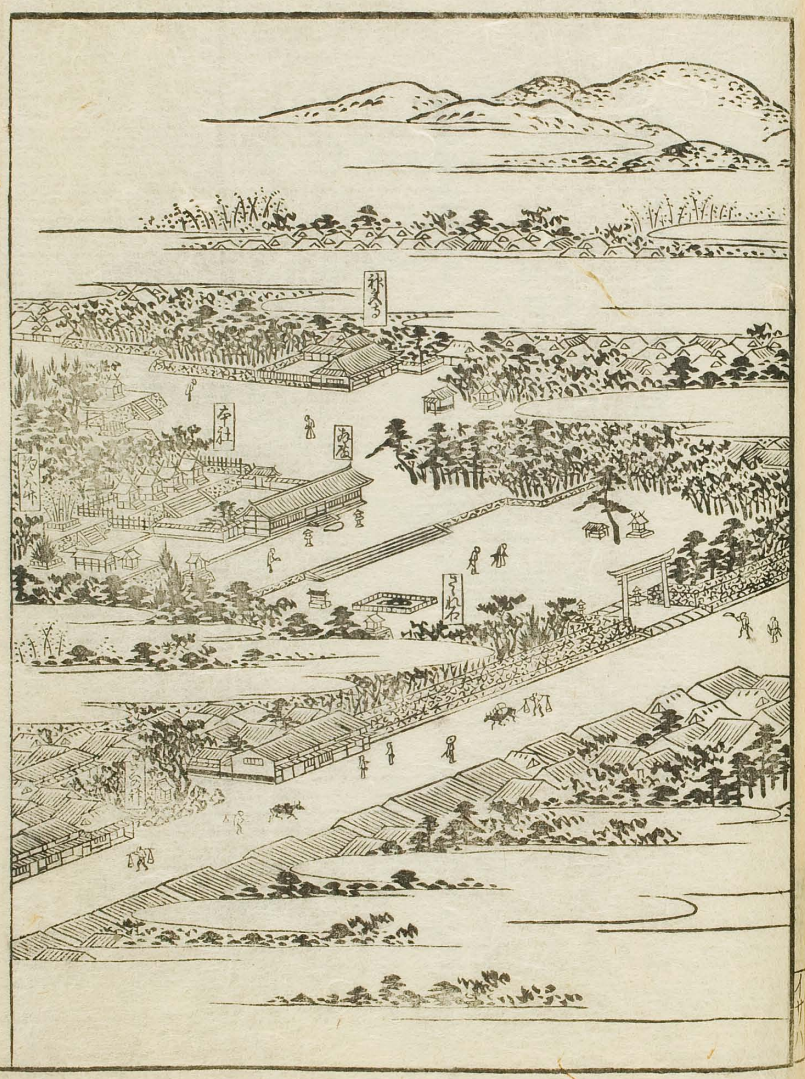
山路古城　田中村ニ城ハ　観應年中　松範顕　居城ニ

石窟家　窟中ニ　村ニ　文保

扁保曽墓　岡本村ニ　墓畔ニ　小塚　二十許　或人曰　左京業平　伝ハ　墓ニ　里の　有ル　祠ニ　共ニ　詩ニ　曰　岡本の　扁保曽　布の織人　岡本ニ　ハ　ハ　ハ


雀松原
求塚
車屋
つた

蒐原住吉
馬場茶
求塚
雀松原
海
海
七ノ二十


林
本社
海岳
宮ノ林
宮ノ川

菟原
住吉社

菟原住吉神祠　住吉村の中ふあり　山路莊生土神　式内例系

祭神　東方一　天照皇神　二月十三日　六月廿日　八月十三日　十二月　東方二　八幡宮　東方三　神功皇后

三筒男神　摂社　春日　諏訪

そも〻當社の勧請の舊時　神功皇后三韓より御凱陣の時

住吉の荒魂王體ふ係りもひくまに鎮座もゆ　郡〻長門國

豊浦より廿二社を勧請しゆ其一〻郡名ふりつく菟原住吉と云

末社　山王　大巳貴命　天満宮　硬石　神巻ふあり　石面凹ふして方に

六月土用ふ至れど自然と水を湛へもれ者〻　大海神祠　本社より南浅澤池を町ふあり　約竿竹　神功皇后　約竿と云

枝系今ふ栄ゆ　今田園の菓子松　当社より六町許　御崎濱　当社より八町許

南の濱　長尾松　濱　神宮寺旧蹟　本社より北十町許ふあり

弟宮八幡宮　本社より北十町許ふあり　六甲山の麓ふあり

御影山　菟原社　小の〻ふ　住吉神　新向しゆに

阿弥陀佛　一説ふ重徳住吉の母公生身の　至信ありて　西方と念しゆ

崖ふ　世ふ山城の住吉弥陀の名ふ

七十二

とりつい仕縁〻ふ　絵図の俗説　山城賀茂の御新宮　摂陽群談ふも　山城

れ御新宮の古跡ふ　の古跡ふ　の古跡ふ　摂陽群談ふも　山城

御影杜　御新宮の　松ふ　出せりかの書ふ

續古　世ふあるそれ又帰さんぢの國社御新の松ふ面ふりを邪　基後

名產御新石　武庫の山中ふ多く出る　御新村の石工山に入

砂出し　来伴大坂及び畿内の石橋　伽藍の礎石

あるひ者居　燈燈　院鉢の新　みゆ仕石ふ仕く　修るむし

砂出ふ山中庚くしく　孫陽ふし

德井川　一名石屋川　水源武庫山ふ流く　德井村ふ屋く

東明に至り海ふ入

弓弦尾　東明村ふあり　諸云皇后異國を征しゆ　付諸神ふ

弥勒ふ　所〻ふ

八幡宮　月村ふあり　例系八月廿二日　武内松　八幡宮の社系ふあり　大樹ふく森の也り

十善寺　高羽村ふあり　街道より十町許也

一尾山と號ふ

本尊観世音　恵心僧都の彫刻しゆ

荒塚　住吉村ふ　菟原村ふ二箇所　東明村ふ　菟原村ふ

伊賀冢　古代の荒冢ふ　由緒不詳　篠原村ふあり　むし　あくふ

名義不詳　鬼冢　篠原村ふあり　鬼樓し所〻ふ

武庫ふようちく
石ハ切出し
より諸國へ
牛車のちゝ分て
日々運ハ年々
石ハ近所茶戸ゝ
樹わゝく紫陽の
みちゝわゝく

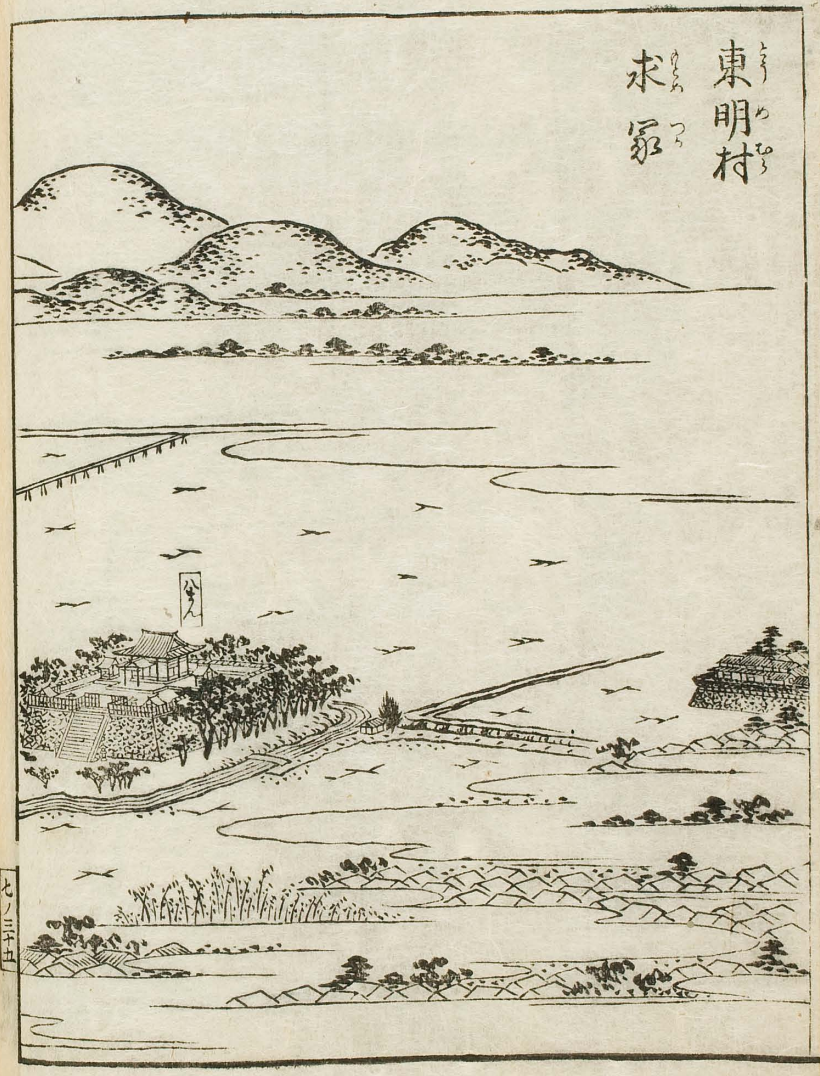
石田友汀画

八幡宮　八幡村ふあり山地の生土神なり上梁文日
天正二十年葺修

無仁蜜柑樹　同郡篠原村若林氏の家園ふあり山本直氏同じ計
枝葉四方へ蓋覆せり秋の末ふ實のなるなり
なるも中ふ仁ふし是あるなり一種原山地る荒然
武蔵守興定と云ふ者の居城なり若ハ海浸ハ山ふ
寸一の城域なり敕代ちに居住しなるう建武の城主ハ討死し
其後荒廃しける所村上源氏の末流若林隼人佑賜国
有縁ふ尋くちた来る城主の女ほそを人孤なりしと妻
家名相續ちたる今の若林氏なり敷地の封境廣くし
溪水通しなる水確と殺け
燈油と製して諸国に
余波松　篠原村の小十町計山中ふあり名義詳あるなし枝葉
四方へ繁茂し方へ繁茂し枝葉
敕百茶ふ純なる色枝葉
風流の樹なり土人をを松と云ふ

祥龍廃寺　篠原村ふあり本尊地蔵菩薩ハ山寺の開基法道
仏人の作なり原当寺ハ廣国山と号し大檀那る
防長の領主毛利候の小の方より菩提所なり今に位牌あり
其外　将軍家ちの所寄附の寶器あり一年の火災に
罹くり堂舎焼燼とあり今再建なし山地ハ郡内の
高みなり大坂城及ひ堺の浦々を廣次広一谷なり
一眼の中に遠なり
直ふの偽色なり

自然石三尊佛　南山阿弥陀寺の墓所ふあり
行基の作なり


東明村
求冢

塚うゑぬ
右と左ハ
男へし
一幹

處女塚 又求女塚とも素戔嗚尊の簡所ふあり一説石川の西郡田村の東田畔の中に有る塚の巡百八十間詳一に東明村ふあり
塚の巡百間詳 塚上に松樹廿株詳あり一に味泥村乃溪樹
ぐ石村の間ふあり塚の巡弐百間詳 塚上ふも塚上ふ
あり東の塚ふ西面 東面 西面 茅渟男と土人鬼塚と
中の塚と 十五町詳 萬葉集 久遠寺名高 荒塚 文人騒客俚談ふ 求女塚に載る所 相陽川津 年歴各 上古乃
萬葉集巻第九云 過葦屋處女墓時作歌一首并短歌

古之益荒丁子各競妻問為祁牟葦屋乃菟名日處女乃
奥城矣吾立見者永世乃語爾為乍後人偲爾世牟等王
杵乃道邊近磐構作冢矣天雲乃退部乃限此道矣去人
毎行因射立嘆日惑人者啼爾毛哭乍語嗣偲繼来處女
等賀奥城所吾品見者悲嘗古思者

歌いあり(乃ち田おろそれ妻ゐしうふ)ふたと先のをきつそそれ
反 墓のうふこのえふ(ふ)ふ(ふ)きうとちぬ男ふ(ふ)うふ(ふ)ふ(ふ)も 蟲麿

大和物語云 此書ハ花山院御作ともいへり一説ハ在原業平朝臣の三男
在原滋春朝臣ともいへり

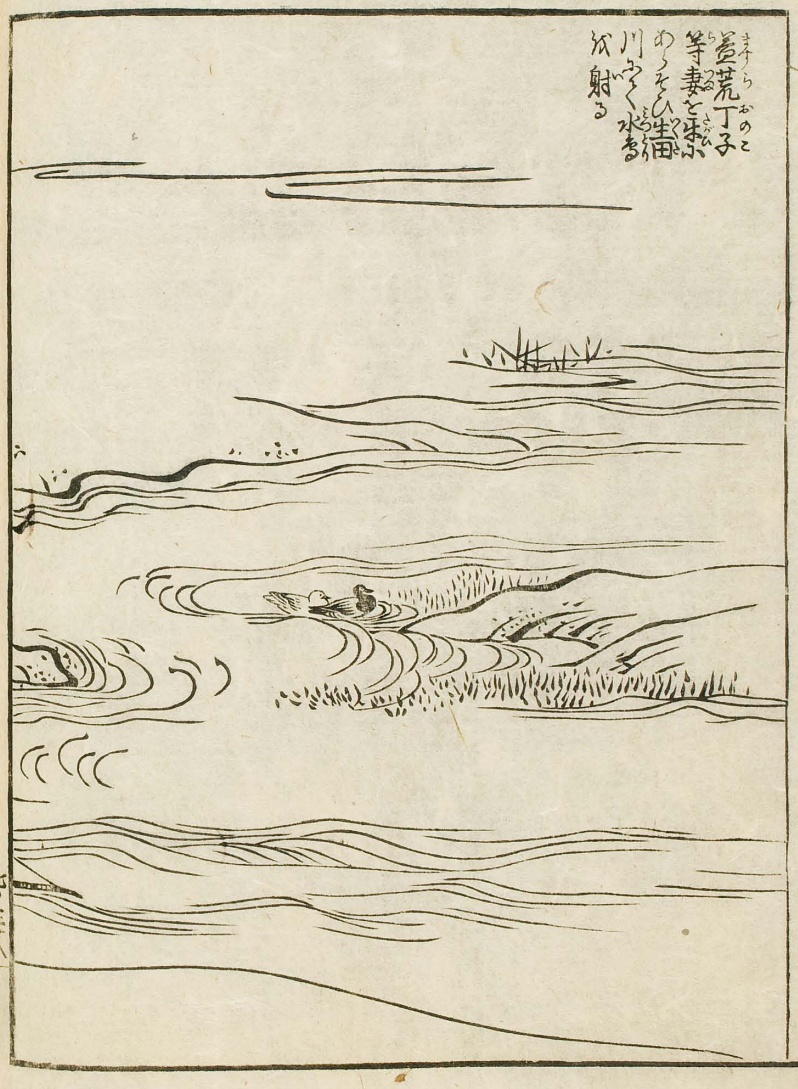
むかしはの國平位女ありそれをよろこぶ男ぬうるあんありるをそうふ
を國ふもむ男姓ハむそうふあんありるをいまをそうふ和泉國乃
人平野ハんあうる姓ハちぬと野んいひ平野かくみを男ともそ
よそひうふ姓人のほとそうたふ(ふ)そうあんあうるをさ(ふ)ふ
場うんよそいあをあとふ人にをさ(ふ)のほとそうおもひ(ふ)ゆう
ありそれをもろともに手末あひぬをそうふをまを半く
おふ(ふ)ゆ(ふ)ふをそうふいはまをまされをそうふ(ふ)くもりそうふ女おりひ
ふつそうふぬ人のをさ(ふ)のおろうあそうふいつれもあ(ふ)ま(ふ)
それをまをもうれを月日ををく家の門ふ立くそうふ門平
をたち(ふ)をそ(ふ)人それをまをあ是そうふもやれそうふもおもひ(ふ)ゆ(ふ)ま
をそうふるりのそうふもそうふもいまをひそうふいろ(ふ)ふりちくそうふをおや
ありそうふくそうふ(ふ)ふ(ふ)をそ(ふ)月をそ(ふ)人のおうををそうふはふ(ふ)ふ

おくもいとかしこしとうくしまあをいまおうちうおりひいさんおん
といふ女こそろもさそてよ人のなさしれかをしゆうおりたるあん
おりひとはこひぬるさこそいくに色よといふよそのうこ生田川
乃つくふをこそうかうちくぬよそうのれそのうををかんとも
よをふやさくをやのいふゆうをれもなさしの同しゆうあをそ
はをこあたりのおんおりひこうしこかはりそいうよれこの
こかはこそてんあるこかをかをいうまをるんあうこくおうこ
そのいこうたきうをしこれもはもいをこをこつをあうこといふはふ
いとはしこくうをあをあをこをやさんをおをひゆふる色うこはしかをを
うたくさはくふあうをを射こあをそれかを射あてあをしふらん
人ふをこんをいふはよいをうたをあうこいひくいはをはやきに
をこうこ額のうこかを射川今ひこうこ尾のうこを射川そのうこ
いつをこいふ色くもあうこにあうこをふ女をひこうしこうひく

七ノ四七

ここ俤くいつる身をけてんはの国はは田の川なのこをう
こうんくはをこをうこ川ふのをきくをこうをれをばうこをちいてぬ
れやあをそさうたのくしはをこをこをこをこをこ人て
をふをうをのうこをおやいこくこくさうたてをうあけてをたはくをを
ををうこに男こもは親もきこをうこ世女の塚はこをうこを又
塚こもはをうくはうこうしむはをはの国乃男は親いふ色う
おおくしをのはをこをこを同しあをせをあをやをのをいそはは国の
土かををうこに(きこいひくはをこをうふをのの方は親いつこ乃
国の土を船ををこをくをふりをきくおん後たうしこをはは後
これを女の墓をを中をくたををこをんはをこの塚こもいまを
あおるのく後事こもはむくしををるをを後をこをかををくをの後きこの
宮をこんのをうこうをれをこれうこんをこをおこくこ乃人を

石田友汀画


荒丁子等妻を求めあくそひ生田川ふく水を射る

かりうくよりこゝろ保野の沖息石男のむかく
ゆけとのゝ水乃ちゝふくあをゝれたゝ海面なゝかひゝろ
女ふあり行く女一乃沖子
浪ゝ形くぬゝくちゝ川ゝるゝうゝまゝ流ゝたゝる人ゝよゝくむりのゝく
又宮
いろこ形ゝるゝまゝ流ゝとゝゆんゝうゝあゝゝゝゝこゝもゝをゝ浦ゝ形ゝくゝよ
去情の今婦
佐ゝのゝもゝのゝゝもゝふゝゝと繋ゝゝゝれゝわゝゝゝとゝゝ人ゝふゝゝぬゝりゝのゝゝ
いゝと石の別当
ゆゝちゝゝゝけゝもゝゝくゝてゝやゝゝそゝん者ゝゝゝうゝゝをゝひゝゝて海ゝの山ゝ紙ゝゝも
いゝきゝゝうゝ〜ゝゝう女ふゝゝりゝて
あゝ来ゝの形ゝんゝよゝゝゝゝるゝゝあゝ所ゝのゝゝちゝ川ゝ海ゝゝきゝくゝゝそゝ歩ゝゝさ
又ゝゝと

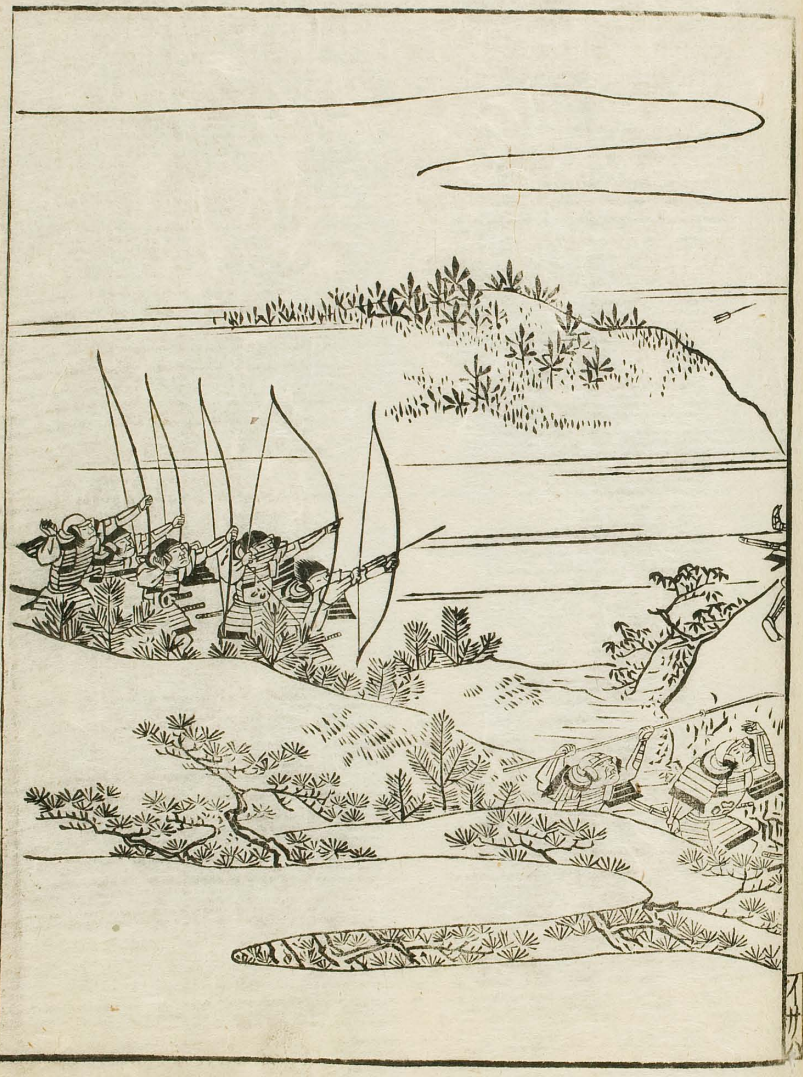
七ノ三十九

身流ゝゝゝけゝくゝゝあゝゝゝんゝゝくゝゝ人ゝふゝ繋ゝゝゝひゝゝとゝゝゝゝ流ゝゝゝ身ゝゝゝゝゝゝゝ新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ川
又いまゝをゝゝうゝのゝおゝゝゝゝふゝゝゝりゝゝく
おゝ形ゝ〜ゝゝふゝゝをゝむゝゝゝうゝれゝゝゝ弁ゝゝゝれゝ形ゝゝゝれゝのゝ繋ゝゝゝゝうゝゝん
花〜女
うゝゝりゝゝるゝゝりゝゝゝゝふゝゝゝゝをゝゝゝゝ〜ゝゝゝゝ新ゝ繋ゝゝりゝのゝゝゝ〜ゝゝ海ゝ〜ゝゝ
又ゝゝとゝりゝの男ふゝゝりゝく
ゝりゝてゝのゝゝちゝきゝ〜ゝゝゝゝゝゝ川ゝ〜ゝゝふゝゝをゝむゝ婦ゝ〜きゝみゝゝきゝゝゝゝゝをゝゝゝりゝ
ゝゝゝゝゝゝ世男ゝゝゝ人ゝ仲ゝのゝゝよゝゝゝゝりゝゝてゝゝりゝゝきゝりゝてゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ海ゝゝ海ゝゝ海ゝ〜ゝゝゝゝゝひ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

法そう一志ゞ一かゝ一ゆゝらん祇こなりのゝむそひ一ゆゝんといへ事
おそろ一しとそゝとやゝくそうさゆゝく夢まやあゝんとおりゝゆゝ
ゆゝちゝまこゝふゝこゝ察てゆゝこゝろゝとそうゝきけゝいゝゝうゝさたの
こゝくゝいこゝうゝ形ゝ志ゝ一あゝてゝゝゆゝの男こゝくゝいゝこゝ一ゝうゝろゝ
こゝひゝこゝ清ゆゝくゝ小年に祇こゝこゝのゝちゝこゝろゝ一ゆゝゝぬゝまゝうゝゝ
ゆゝこゝた清ゆゝりゝこゝゝうゝり侍ゝる爲ゝたゝこゝく世事のゝち一ゆゝうゝり祇ゝる
ゝゆゝゝむゝくゝゆゝゆゝ一ゝとゝおゝりゝゝとゆゝゝゝゝゝた事ゆゝれゝこゝこゝひゝこゝきゝく祇
ゝよ教もゆゝけゝふゝゝゝこゝゝゝゝゝ人ゝも形ゝ一ゆゝ一ゝふゝゝれゝこゝ塚のゝゝゆゝ事
血形ゝと形ゝんゝゝゝゝゝ

是を知ざる人なりやとて棄せんとする人も無さるう故やうを見
知あるうるん昂取龍て是を討んと志けるが其勢小僻易して近くハ
更に寄ざるれども十方より遠矢ハ射る矢雨や竜の涙ようう
も猶繁し義貞ハ薄金と云甲ハ鬼切鬼丸とて多田満仲より
傳りうる源氏重代の太刀を二振帯をうけるを左右の手に抜
持てさがる矢をハ飛越あがる矢をハ俯て真中と射る矢
をハ二振の太刀を相交へて十六ヤぐ迄切て落されける其有様譬ハ
多聞持国増長廣目の四天須彌の四方に住て同時に放矢を
捷疾鬼走廻て矢と大海に落るを拾ひ取しも角やと貫ぬる
計ハ小山田太郎高家遥の山上より是を見て諸鐙を合て馳参て
已が馬ハ義貞を乗奉て我身ハ徒立に成て退懸る故と防けれ
故あやまてハ取龍られて遂ハ討るを義貞朝臣の方の
勢の中へ馳入て虎口の害を遁給へ抑官軍の中ハ義を知

命を捨んとする者多しとなく共も寄の急なるを除んて大将乃
命ハ代んとする兵かりるハ遥ハ漏るハ山田を人馬を引違して
義貞を奉て剃我身ハ下て討死しける其志を乃至ハ僅の情
ハ下りて百年の身を捨るを去ども義貞西国の方を承て播磨ハ
下着し時兵多くして粮乏ク軍ハ法を亡ぶ諸卒ハ
粮藉絶るを一粒をも刈採民屋の一ツをも追捕をしんとする
者を遂ハ誅せ下ぬ中を大札ハ書て道の辻々ハ立ぬ
るをハ人ハ農民耕作を棄ぬ者人賞賞を快しけるをハ
高家故陣の近隣ハ刈て麦を歩刈せて桑鞍ハ負せて帰ける
時の侍所長濱六郎左衛門尉ハ見て直ハ高家を召寄せ力ハ
法の下ハ是を誅せんと義貞ハ聞給て推量をるハ者
青麦ハ身と贅と思ハんやハ所故陣ハ思誤るを然ハ
兵粮ハ術盡て法の重を忘るるの間ハ何様彼役所を見よとて



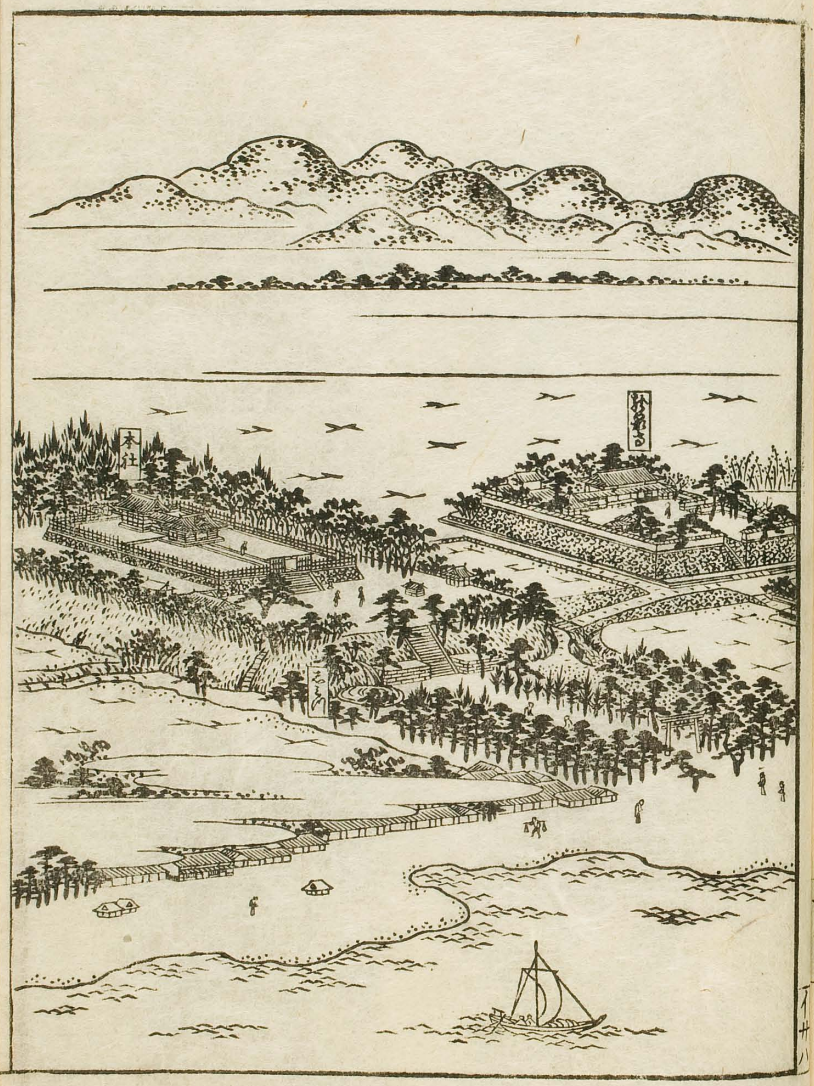
小山田太郎ハ
武蔵ノ国ノ住君
義貞ノ恩ヲ
顧ミズ義ノ為ノ
小戦死シケレ
共ハ和漢ノ
称ある忠臣ノ
武士ハ人ハ
こゝ武神ト
ス仰ぎ尊ぶ
ものなり
石田友汀画

使者ハ遣しく點検せられけるに馬物具爽ハ有て合戦の疲る
一疲もかうかうと使者帰て山田と申されて義貞大ハ舩ら氣色ハて
高家ら法と犯を事ハ戦の為ハ罪と忘まとうべし何様士卒共ハ
疲ら大将の舩也勇士ハ共色ら法とハ乱事勿まとて田の
主ハ小袖二重與く高家ハ兵粮十石相副く色代して帰されて
ける高家ハ情と感じて忠義弥ハ深くれて山時大将の命ハ
賛と忍ハ討死をとをうけるく昔より今ハ至るまて流石ハ侍
る程の者ハ利をも思を威ハも恐を只其大将ハ為て身ハ
捨命ハ賛るる者の道と武将ハ人これを憚ん事とおもと
ざるん乎 云云

都賀川 一名大石川 海ハ入 あ源武庫の杜谷より出く川原大石ハ多く
敵馬浦 ふこ大女も書に大石岩屋勝浦ハ多ハ真る八岩所抄文水藻塩
宗祇園ハ等ハ出さり
直す境みぬめの浦ハ百船のとまり山色に涙ぬるるかハ 福詹

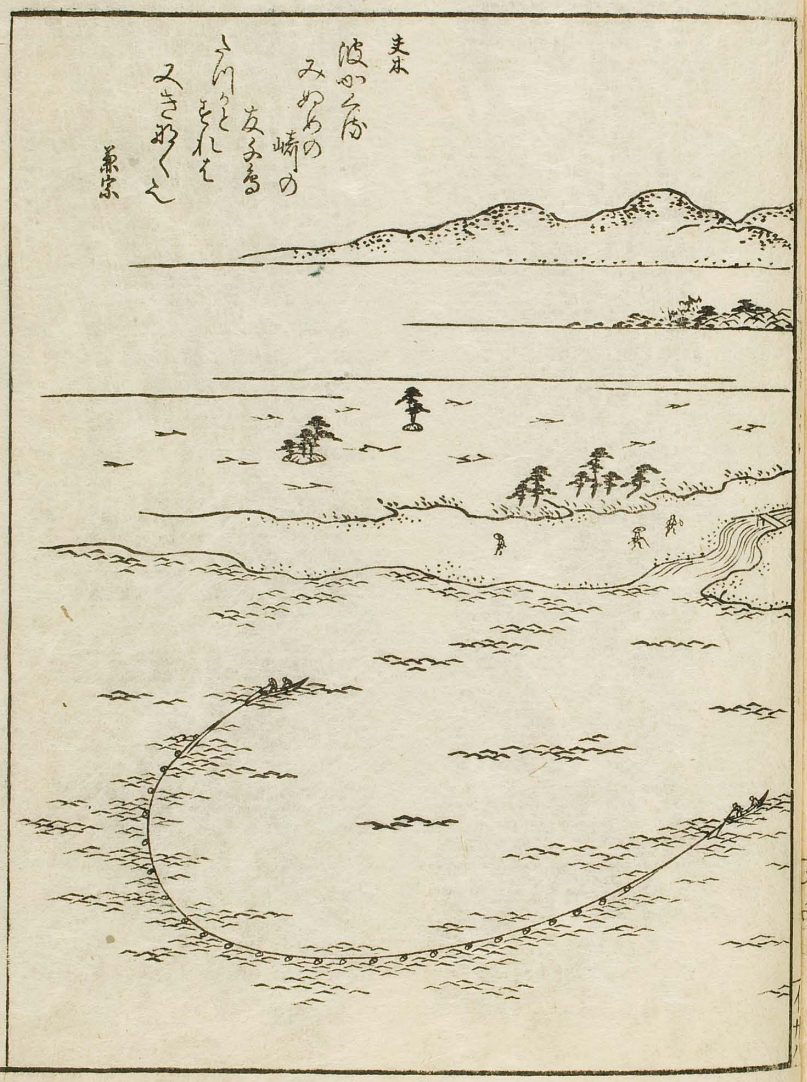
七ノ四十三

後拾遺 稀ハくたみぬめの浦乃海士ハ船いるるかめふるく定りん 義家定教
日 涙ふるるわさに今ハうたゆくみぬめの浦ハめるく袖の乾 おくの大納言 基家
続千 よ恋ハふハ刀ぬめの浦の蜑人やさ徒に袖めるをん 義家師光
玉葉 恋人と二大女の浦のわさ波いさのをかけても伝のをるん 忠成女
家集 忘貝をれもをひのたゆ絶くくんとぬのをるみそをぬる 定家
二大女磯 山浦の例磯と
万葉
波つをひみぬめの磯とをとをいの拳と哀しく田鶴沢ハ鳴 奥義抄
二大女里 大石岩屋ハ 敵馬関 今廃して
新後撰
頼ハうし里の志るくも問のをてをぬめの志ハ帰る波のハ 定家
敵馬神社 岩屋村ハあり延喜式ハ都郡ハ載 岩屋大石味泥の生土神とハ
例祭八月十二日山神ハ原紀勢郡敵馬とハあり神功皇后船ハ造り
敵馬神といハ風土記ハ見へたり仙覚万葉の注も同し
二大女清水 社頭の西石垣の側ハあり妻恋ハ 別當龍泉寺 社の東ハあり禅宗
辛酉あるく霜月二日宮遷しの日ハ 茅葺仏安に
宝 寿子神の御祭礼あるん 湘夕


本社

岩谷邑
敏馬社
求家
求源

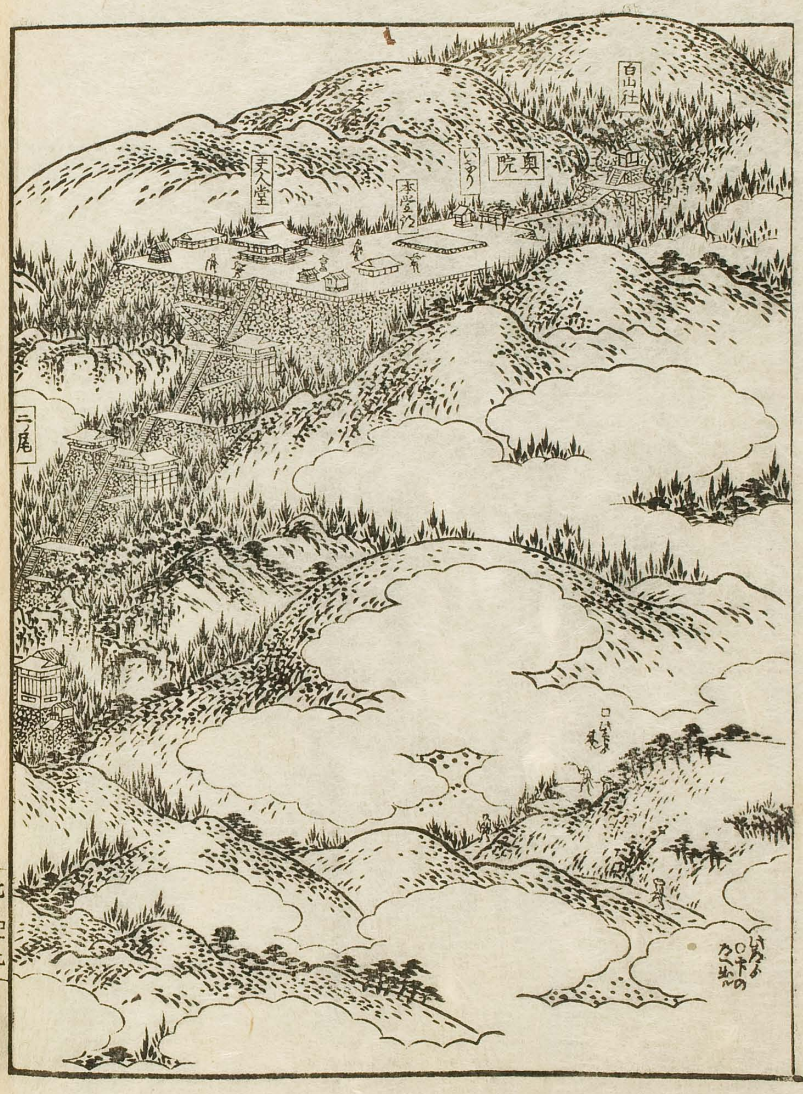
敵馬浦
法然松
二ふ山
夜耶山
法然松


波のうち
みめぐの
崎の
友よる
うりとれを
みきわくし
兼宗

麿耶山
樵うり
坂路十八町の
間を町毎ゝ
標石あり
帆を上げし
柳ちらく
麿耶
おろし
上野村

休下

摩耶山忉利天上寺


百山社
奥院
天人堂
二尾

佛母麼耶山忉利天上寺　上野村の上方ニあり古義真言宗坂口ニ小龍麼堂あり古義真言宗坂口ニ小龍麼堂
真道峠　曲盤七折あり一徑蔚然　坂路十八町くゝ町毎ニ標石あり
山頂ニ至る　と下瞰を是尚邦の一佳景　坂路ニ二間の懸所あり
傍院八宇　石階の左右ニあり　内外の石階七段　坂路ニ二王門あり　内外の石階七段　坂路ニ二王門あり
羅漢堂　諸堂佛院二王門　石階等
金剛ニ　今者　俗の　ハ　あり
夫人堂　山上の南面ニあり　傳云梁武帝の時女人難産の患ニ
祀る者　教を求ニ　帝これを憐み　摩耶夫人の彩像を二軀
刻し一軀ハ梁帝の皇城ニ藏め一軀ハ弘法大師入唐の時ニ
授る　大同年中ニ　帰朝し　當山ニ藏む　長六寸
額　佛母摩耶山忉利天上寺と書ニ　又圓浮檀金長二寸の像ニ　胸中ニ藏む　毎年二月
初午日法會ニ　遠近ニ　群集ニ
観者堂　夫人堂の左ニあり　法道仙人の化長三尺六寸
向基法道仙人　奥院　夫人堂ニ　五町許奥ニあり　此所ニ
弘法大師の彩を安ニ　女人結界所ニ　神明　白山權現
奉る　當山の鎮守ニ　又稲荷祠ハ　什寶　都九面　上野村　幸王
口の親者堂の側ニあり　太夫の家ニあり　此
傳聞あり　當山ニ藏む　毎日二面の内ニ一面ハ金春太夫ニあり一面ハ丹波
梅若　太夫ニあり　幸王太夫ハ南都　薪の社ニ出勤ニ
夫當山ハ夫空法道仙人の創る所　あり　法道ハ西ニ
海畔八里ニあり　其峻嶮ハ　衆山これを仰ぐ　山頂ニ登れ

翛然ハ　雲ニ御を乗ぜ　遼ニ南溟を望む　則漫々ハ
深形　真ニ一方の名山　初ハ法道仙人　天空蓋ニ乃仏苑ニ立
五百の持明仙と同ニ　梵行を修し　各道果を獲て十方界ニ往
人天を利益ニ　嘗て紫雲ニ乗じて日域ニ到り　天竺国ニ
至る　西明寺の道賓律師ニ謁ニ　律師昂圓浮檀金所造の十一面
大悲の像長三寸を法道ニ附與して曰ハ　釋尊四十
二年の時ニ　此像を鑄る　忉利天の摩耶夫人ニ奉ル　仏泥洹の後ニ
遣て摩耶下界の衆生を利せんと　ハ　阿那律尊者ハ
附與ニ　厥后毛青毛頭ニ　者あり　其像乃び佛舎利を
持し　来る　此彩舎ニ寄ル　法道遂ニ　これを携て　當山ニ至る　昂律刹
を創し　長三尺六寸十一面観音像を造る　金像を自中ニ藏る　故ニ
本殿ニ奉る　故ニ　師　佛母摩耶山忉利天上寺と　遂ニ大伽藍と成る
子院傍坊　二百餘所　下界晨鐘昏鼓　山川ニ響應し　四来の黒白禮謁

る事を志ゐくして實ふ攝州の名刹と後世寇火ふ廢しく今堂塔四區僧院八宇あり山麓の神戸脇濱の海上より見上るに翠微乃中ふ巍然たる寶閣詳ふしく中華金山の海嶽樓ふも劣るまじくそなわりし名

摩耶古城 正慶二年赤松圓心ちふ六波羅勢五千餘騎同二月十一日摩耶城の麓求塚八幡林よりそ攻寄ける赤松入道謀ふ討て出散々に戦ひ夕しそ六波羅勢大ふ歩負敗ふしく城の麓武庫川の西れ遠二里ゞ間人馬上ゞ上ふ充ふ人路ふ去敢ば向人附七ゞ餘騎と闘ゐ六波羅勢僅ふ騎ふぎふもたゝで引退しけるとなる記ふ書り城跡一ノ尾二ノ尾の名今存に

天狗巖 篠原村の山中ふあり山地出遠ゆ二里ゞ間人馬遠く雲霞映の

河内國魂神社 篠原の生土神とし文明年中の社記あり畑原

舟寺八幡 篠原村ふあり近隣五ヶ村の生土神と城内ふ舟寺と

舟寺の僧の後ふ僕む所ふ散ふ

舟寺ふ法ゆ山ゆ山ゆ山所の生土神と

末友天王祠 銀治屋村ふあり山所の生土神と文明の頃記あり

法然松 脇濱の磯ふあり後三年中法然上人讃州の時山地ふ植置の松あり枝葉繁茂しく情態のめし殊ふ山地ふ植置の松あり枝葉繁茂しく情態のめし遺ふ側ふ植置の松あり枝葉繁茂しく情態のめし詳

阿弥陀寺 脇濱の村中ふあり栽松山と号に浄土宗本尊阿弥陀仏開基は法入法師あり

法然上人浄土の時山浦人屠松右衛門ゆ家に宿せ寺僧念仏の弘法ふ勧化あり右松ふ海畔に栽ゆ我年頃末代ふ業あん志ゆ一ふ山の松右衛門も仏業ふと成法入と改名し我宅ふ寺とし阿弥陀寺と号し念仏の道場とし一ぬと寺記ふ見へり寺乃什宝ふ山城の証といへり法然上人船中ふて作しゆ念仏唱へ一ゆ其者ふふ城く弥陀に向しゆ名とせり山寺ふ同称しゆ廿八畳場の中ふ入ゆ除れし事不審へ後世の所造ふ

後考と

天王塚 畔塚 和理塚 共ふ脇濱ふあり由緒不詳

名産灘酒道 五百崎田大石脇濱神等酒造し多く諸國へ運送に成ふ閑田酒といへり

名産燈油 水碓とゆく製油の五村ふ水碓にして

生田二宮 生田村ふあり生田明神摂津神八郡の其一へ葦屋莊六ヶ村の生土神と

本社は八郡郡生田ふあり

次下ふ見へし

熊内
瀧勝寺
布引山の裏
砂山
勝石
勝寺
ちんち
ちんち

初者
熊内村小
牡丹の
名木あり
しが今ハ
小木と

布引の滝
布引の滝日本
まろくてうえ名る
續戸
山姫の
袋の樣ハ
ひたりけて
さゝ甘る布や
滝の白波
女滝

男滝
不動
砂山
男滝乃
滝乃

布曳瀧　境山にあり　雄滝雌滝の二流あり　雄滝の半ばに町許の高サ廿八丈洞しく布を曳ふ異なり　此勝景偉観郡最一の奇観なり　雌瀑布の高サ十八丈洞しく布を曝ふ如し　雄滝雌滝の東ふ一つの小丘あり　ここを雌瀑と称す　雌滝の西ふ武庫郡に流れまい生田川と成

栄花物語布引瀧考

そこにやきのぬの白たの瀧はらんじふおりかたのほやとおりうさ備くの特製来あやいろさ業平ら

いひはけるやふそあり名むう

ちくらんうひも有られ山路の名そきつるぬの川乃瀧　くつんぐくの

水の色たく白雪ときゆるかされさくらん布川の瀧　宮太夫敦房

ちはくき雲井遥ふみゆるれふ流る布曳の瀧　宮太夫祐家

雲井よりそ名おつる瀧つをは只白糸のさぬきりけを　宮太夫経信

水上の雲にみゆるは白雪の川ふ流るぬの白さのうた　宮太夫経信

立帰る生田の杜乃いくひもみるもあり布川の瀧　二位中将師通

七ノ五十二

よくのふる山路のさくに成白玉れぬ布引乃うた　中納言実

水上い雪ときあてみく称ふも若枝実あるぬの白たの瀧　権大夫為家

なくあるとあ成りきら山路のそるうにへる布川の瀧　つか

伊勢物語云　業平

このたきたる所実はくくれそれ成たりふくあるのをけ

ともあれまるさふりはあとこ乃ここもあるのうくくそのこ　行平

いのまくの海乃やうふあをひあるきくいさこの山乃ものをよあ

るとい布川の瀧くくのほくくんといひくのほりてなるふその瀧をの

李白廬山瀑布詩飛流直下三千尺疑是銀河落九天　伝文勢之

うくくあり名さ二十丈名ろくさ丈とりあるの石のおりてふあくくぬ　小野子

ふいくく成はくくんやうふあんありけるさふさたのうくくよりくくろ

おはくさくくて流くくはくる石有を石のうくふくくまくるれはせうくし　小野子

くくのおはくさくさみくくくやをくくをくくをくくるくくたみふ瀧の奇くくはを　栗

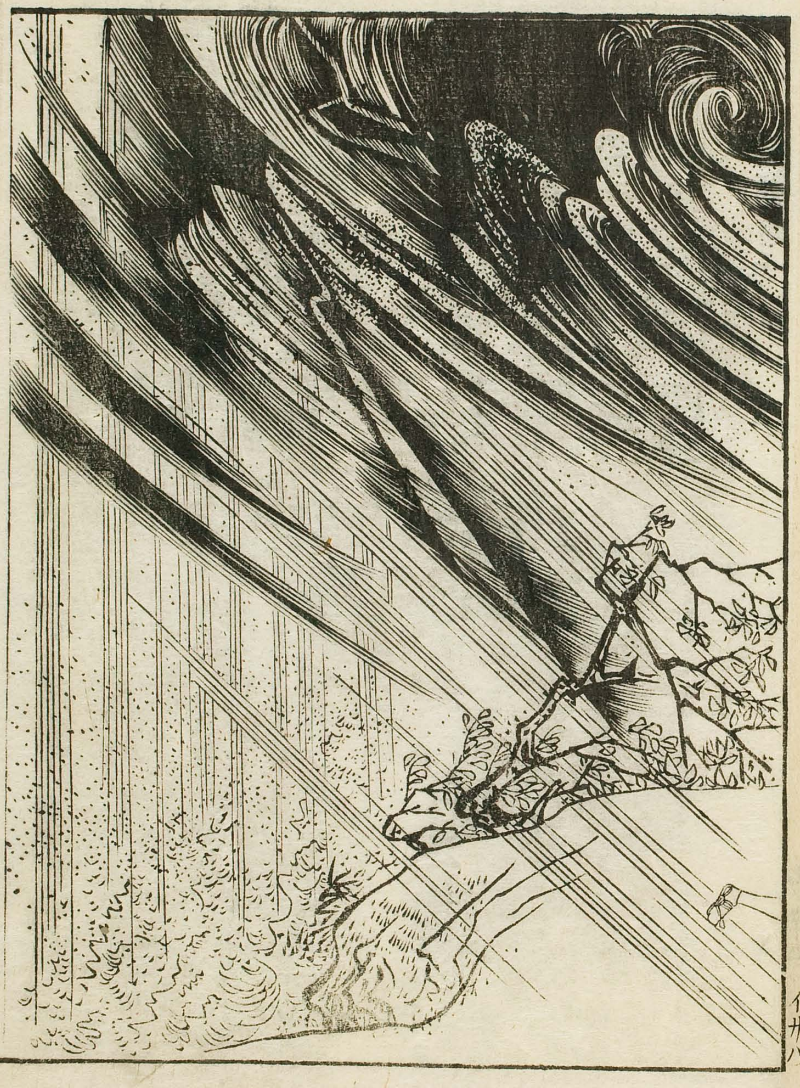
ものの歌くくのくくを先くくむ

芦のやけいさこの山乃そのこゝふのほるて月五六布引の滝

我世とは人ふかあとをとゝまりひのゝこゝこの滝とゝつまさらけん

あ[illegible]ぬさみさる人乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

平相國
布引瀧信
石田友汀画



を〆て昇りける 下畧

砂山 熊内村の上方にあり山中に布引瀑あり

瀧山古城 布引瀑のうへにあり天正中

瀧勝寺 熊内村にあり布曳山と称に真言宗 開基役小角者

本尊馬頭観音 役小角者の作長一尺三寸 初開浮屠金堂造す 二分の縁布曳瀑より出現し役小角 役小角者 感得し胸中に籠らん 大師堂 弘法大師の像 安置

八幡祠 瀧勝寺の側にあり 比地の 清水 名泉 社頭にあり

福井塚 熊内村にあり 旗塚 村にあり俗云むり源範頼ここに旗を立るし 由緑不詳

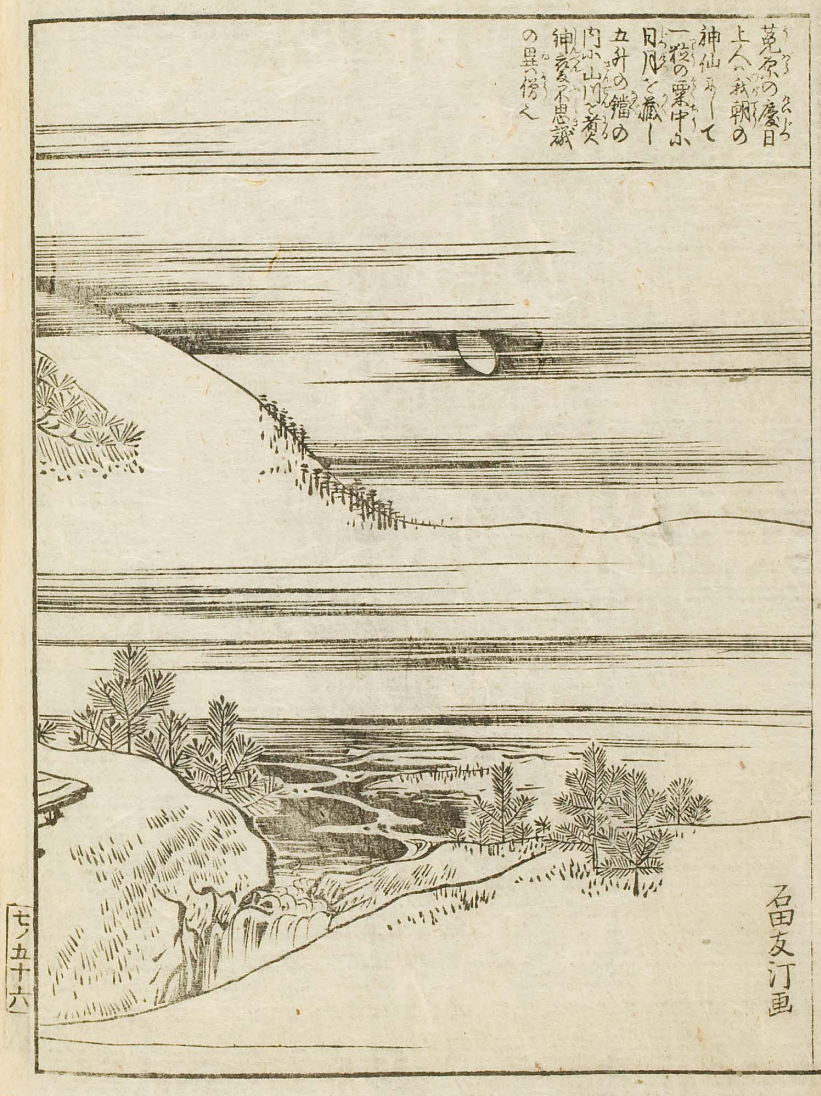
熊内牡丹 熊内村醫者の家にあり初めは高サ丈餘の牡丹あるし世今 樹くなし 因花に載て名世に高くれいきて記を

高林神祠 原田村にあり 祭神 大市姫命 土人高松明神と称に 二代実録曰 貞観十八年七月十五日 授摂津國正六位 上高林神に従五位下を云 比実録に載て 延喜式 神名帳 月村にあり土人王子権現と称に

王子神祠 月村にあり土人王子権現と称に

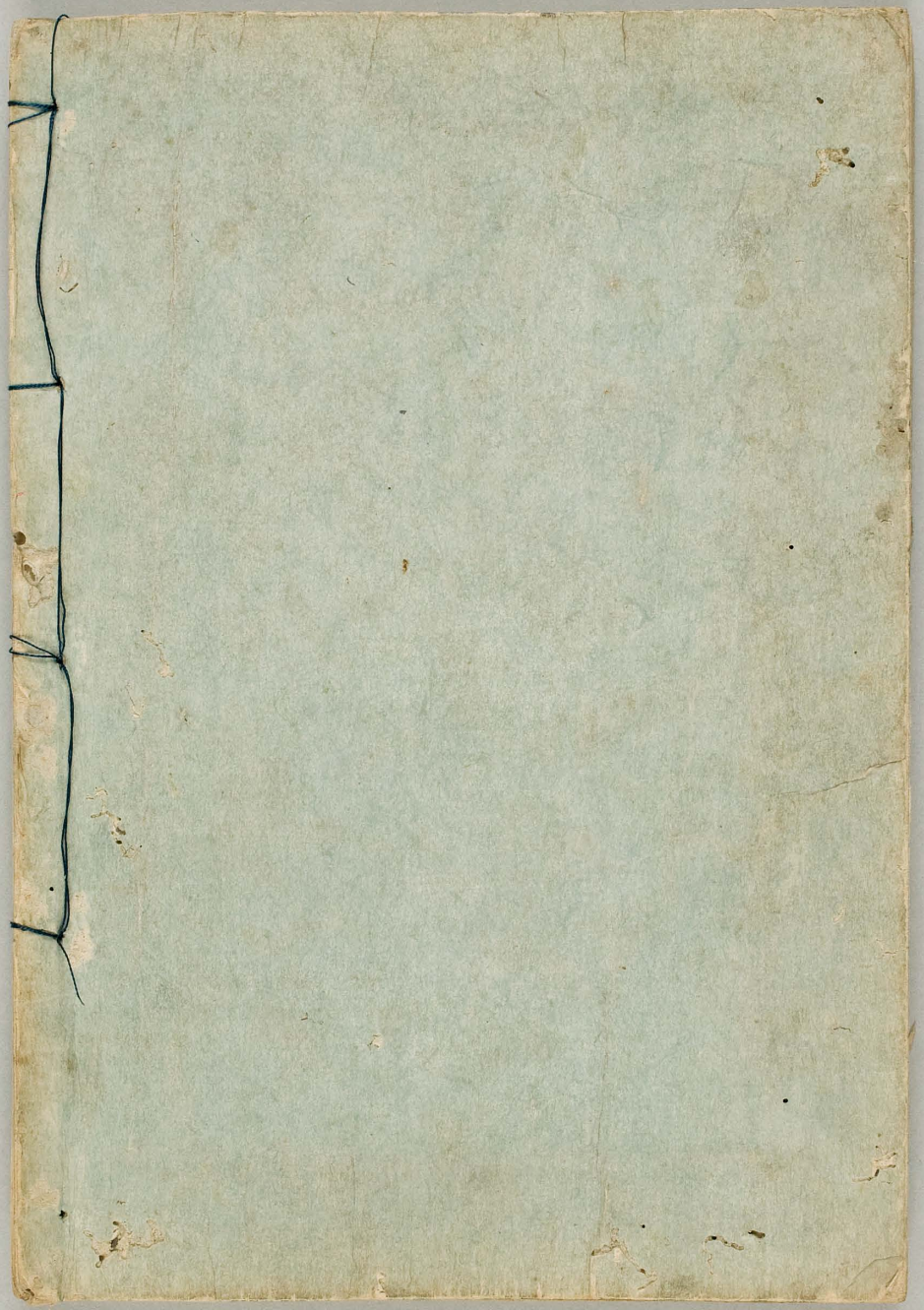
釋慶日法師古蹟 釋書に摂州菟原郡とあり 其古跡詳あり次

釋慶日法師は平安城の人と叡嶽に居し講学に勤む其外顕密内外の典に渉る晩年に本山に出て摂州菟原郡に住し法華経を誦し密供を修に方丈の草菴の外別館なし 経論花器の外餘具なし 特齋に缺に沖酒に含に或は雨夜に出切をれい給に炬を持る人あり 後に笠に 驚き者あり遠く人これを望見る走て迫つさてきて 見るに炬笠なし又遠く避れど炬笠先のごとしあるひは 搢紳車馬の客門菴に到る駢闐を村人迎て見れて 又人馬なし遠く聞く喧雑の聲故のごとし 溢然そこく 時に病無く法華を誦し定卯を結んで逝去に忽然として 百千人の者あり悲号嗚咽を村民菴所に往きまれを 見るに哭聲を聞といへども其形を見ず時の人咸曰炬笠 及び哭泣の人は皆是天神諸聖の冥感と信せりといへ


蓬莱の豪日
上人は我朝の
神仙なりて
一粒の粟中ふ
日月を藏し
立升の鐺の
内ふ山川を煮
神変不思議
の異人伝へ
石田友汀画

半ばゝ晋の佛圖法師ハ鉢中ふ水を盛香ふ燒て咒を修それを
須臾ありて鉢中ふ青蓮花を生じたるとてこの奇特あるべし

拾漢名所圖會

七五十七尾

OWUL